

2018年度 大学全体 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、学部の入学試験要項（E-1～15）に『東海大学は、「建学の精神」に基づき、専門だけにとらわれることなく幅広い視野をもち、自ら考えることで未来を切り拓く多様な人材の育成を目指しています。東海大学はこのことに共鳴し自ら学ぶ意欲をもった人を求めています。』と記載している。大学院の場合は、研究科毎に大学院ガイド(E-16)にアドミッション・ポリシーを記載している。本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシーにおいて学部・研究科毎にアドミッション・ポリシーを掲載し、広く周知を図っている（E-17、E-18）。

なお、文学部のアジア文明学科、ヨーロッパ文明学科、アメリカ文明学科、北欧学科、歴史学科東洋史専攻、文芸創作学科、広報メディア学科、心理・社会学科、健康科学部の看護学科、社会福祉学科は2018年度より学生募集を取りやめたため、2017年度より学生募集活動を行っていない。そのため、この9学科および1専攻については、学科個別の報告書は作成しない。

出願資格は、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において設定し、学力については各学部・研究科の期待する知識の内容及び水準を明示している。また、本学オフィシャルサイト（E-23）においても同様に掲載しており、近年導入したインターネット出願での受験生にも対応している。

障がいのある学生については、取組みの基本方針として、

1. 本学の全ての教職員及び学生は、障がいを理由とする修学上の差別の解消に取り組むとともに、障がい学生が、障がいのない学生と平等に教育研究、課外活動等に参加できるよう機会の確保に努めます。
2. 本学は、共生社会の形成に向けて、障がいの有無にかかわらず、全ての教職員及び学生が、相互理解と尊重の精神を培うための教育環境の整備に努めます。
3. 本学は、障がいの有無にかかわらず、すべての学生が、社会で活躍できる人材に成長できるよう支援に努めます。

の3つの方針を掲げている。（E-24）

本学では上記の方針のもと障がい学生を受け入れ、2018年度は学部全体で309名の学生（うち2018年度の入学生は52名）（E-25）、大学院で8名の学生（うち2018年度の入学生

は3名）（E-26）を受け入れている。

受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった受験生については、文書にて本学の特別配慮内容を回答し、特別配慮内容を了承のうえ出願していただいている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受け入れ方針に基づき、多様な学生を募集するため一般入試、文系・理系学部統一入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試、附属推薦入試など様々な入試制度を設けている。各入試では、面接、調査書、学科試験等を用いて、アドミッション・ポリシーの理解及び基礎学力を判定し、選抜している。また、学長を委員長とする入試判定委員会を開催し、合否判定を行っている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「東海大学 入試情報」（E-27）、本学オフィシャルサイト（E-23）での周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会、高等学校での説明会、業者主催の進学相談会、オープンキャンパスでの個別相談等で情報提供に努めている。これらの説明については、入試広報課職員をはじめ、入学センター職員を中心に大学内の事務部署から動員された入学アドバイザーによって行われている。特に、附属高校生に対しては、学園の方針に従って高大連携を密にし、進学希望者に対して、学科レベルでの全学的説明会を開催し、面談等を通して学科で学ぶために必要な準備を理解させている。

留学生には、本学のオフィシャルサイトの英字サイト（E-28）を通じて、あるいは「留学フェア」への参加や、日本語学校への広報を行い、これらの周知を図っている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、学部入試及び大学院入試について検討を行っている。この委員会で決定した事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、学長・理事長の承認を得ている。また、広報活動についても各学部・大学院より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。

以上のような入試制度に関する周知と入試制度の策定・実施・検証・改善のプロセスを取っており、学生募集活動は適切に行われている。

各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において各学部・大学院の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。また、試験実施に関しては試験日当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、受験生の受験時の不安低減に努めている。さらに各地の

キャンパス及び各地方に試験場を設け、地方在住の受験生の利便性の向上を図っている。

選抜方法や選考方法については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）において、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（E-23）に掲載しているほか、学部については「東海大学 入試情報」（E-29）、大学院については「東海大学 大学院ガイド」（E-30）に記載している。特に学部については「東海大学 入試情報」（E-29）に出願状況の他、競争率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

このように本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学者選抜を行っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度大学基礎データ（表2）学生（E-31）にあるとおり、ここ5年間の各学部の入学定員充足率は0.77から1.15となっており、学科単位での増減はあるものの適切に管理されている。大学院については、研究科によって充足状況に差異が生じている。これは、学部と異なり研究のトレンドによって出願状況が変動するためであり、質の確保の観点から容認している。学部における入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げることで防いでいる。また、未充足学科を減らすために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。大学院については、入学定員の未充足や超過が発生しているが、著しい定員超過とならないよう厳正な合否判定を行っている。

定員未充足の研究科の多い文系大学院の収容定員に対する在籍学生数比率については、研究科と本学付置研究所との連携を強化し研究活動を活性化することにより、在籍学生数比率の増加につなげる方針である。

一方、収容定員に対する各学部の在籍学生比率（収容定員に対する充足率）は、学部によって差があるものの、0.68から1.16の範囲に収まっており（E-31）、一部に充足率が低い学部があるものの全体として適切に管理されている。大学院においては、研究科間にかんがりの差が見られるが、上述したように、入学定員の未充足や超過に対する対応策をとることにより、序々に適正化が進むよう努める。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受入れ方針が、適切に運用されているかを入学時の基礎学力テストの結果や入学後のGPAの推移等を利用して入試制度の改革に活用している。入試制度の検討改革は、入試企画専門委員会での検討、入試企画委員会で検討・承認を得ている（E-32）。また、各種入試制度の募集人数については、過去の志願状況を踏まえ、入学センターを中心に検討し、原案を各学部・研究科に提案し、学部・研究科で検討後、承認されている（E-33、E-34）。

（2）長所・特色

アドミッション・ポリシーについては、「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「大学院ガイド」（E-16）や本学オフィシャルサイト（E-17、E-18）を通じ広く公開されており、本学を志望する学生に適切に提示されていると評価できる。

学生募集、入学者選抜については、各種「入学試験要項」（E-1～15、E-19～22）、「東海大学 入試情報」（E-27）にて適切に情報提供を行っており、また、その周知についても入学センターの職員だけでなく、学内各部署の協力によって動員された入学アドバイザーが積極的に広報活動を展開しており、適切な周知ができているものと評価できる。

ここ5年間の各学部の入学定員充足率は0.77から1.15の範囲におさまっており（E-31）、適切に管理できている。入試企画専門委員会、入試企画委員会、常任広報委員会など各会議体にて学生募集、入学者選抜の公平性や適切性について検討を行っている。ここでの決定を踏まえ、次年度の入試制度改革や新規広報企画の策定等の改善が行われており、検証の仕組みが十分機能していると評価できる。

（3）問題点

学部・学科、研究科毎のアドミッション・ポリシーの掲載が、本学オフィシャルサイト（E-17、E-18）、学部・学科案内（E-35）、大学院ガイド（E-16）の複数媒体でなされているが、いくつかの研究科で内容が不足している点が見られるので、早急に修正する必要がある。

（4）全体のまとめ

学部・学科、研究科毎のアドミッション・ポリシーの周知をより進めるために本学オフィシャルサイト（E-17、E-18）への誘導を図り、学生募集を展開する。

適切な学生募集活動をさらに発展させるためにインターネット出願を拡大し、本学を志望する受験生の出願の利便性を向上させる。

（5）根拠資料

- E-1 2018年度秋学期 東海大学入試要項 医学部医学科一般編入学試験
- E-2 2019年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）
- E-3 2019年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（学科課題型）
第二次選考
- E-4 2019年度東海大学入学試験要項 医学部医学科アドミSSIONズ・オフィス入学試験
（希望の星）
- E-5 2019年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験（適性面接型
一期・二期）
- E-6 2019年度東海大学入学試験要項 アドミSSIONズ・オフィス入学試験〔スポーツ優
秀者（熊本・札幌校舎）〕
- E-7 2019年度東海大学入学試験要項 スポーツ・音楽優秀者アドミSSIONズ・オフィス
入学試験
- E-8 2019年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミSSIONズ・オフィス入学試験
- E-9 2019年度東海大学入学試験要項 スポーツ優秀者特別入学試験
- E-10 2019年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験
- E-11 2019年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験
- E-12 2019年度東海大学入学試験要項 企業推薦入学試験
- E-13 2019年度東海大学入学試験要項 工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻入学試験
- E-14 2019年度東海大学入学試験要項 医学部医学科入学試験（一般入学試験・センター
試験利用入学試験・神奈川県地域枠入学試験・静岡県地域枠入学試験）
- E-15 2019年度東海大学入学試験要項 文系・理系学部統一入学試験・一般入学試験・セ
ンター試験利用入学試験（医学部医学科以外）
- E-16 東海大学大学院ガイド2019
- E-17 東海大学オフィシャルサイト アドミSSION・ポリシー（学部）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- E-18 東海大学オフィシャルサイト アドミSSION・ポリシー（大学院）
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/graduate/>
- E-19 2018年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- E-20 2018年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- E-21 2019年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験（第1期・第2期）要項
- E-22 2019年度東海大学大学院春学期推薦入学試験（第1期・第2期）要項
- E-23 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- E-24 東海大学オフィシャルサイト 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについ
て
<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- E-25 平成30年度（2018年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査〔提出調査票
7. 学部障害学生数 写し〕

- E-26 平成30年度（2018年度）障害のある学生の修学支援に関する実態調査〔提出調査票
7. 大学院障害学生数 写し）
- E-27 東海大学 入試情報2019
- E-28 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/english/>
- E-29 東海大学 入試情報2020
- E-30 東海大学大学院ガイド2020
- E-31 2018年度大学基礎データ（表2）学生
- E-32 東海大学入学試験運用組織及び業務分掌規程
- E-33 2019年度東海大学学部入試要項人数（2018年度第2回学部長会議資料 08 入学セ
-2018報-9）
- E-34 2019年度東海大学大学院入試要項人数（2018年度第2回大学院運営委員会資料 08
入学セ-2018報-10）
- E-35 2019年度東海大学 学部・学科案内
東海大学オフィシャルサイト デジタルパンフレット
<http://www.tokai-adm.jp/library.html>

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

文学部では、大学の基本的方針に則って3つのポリシーを掲げ、その中で学生受け入れ方針としてのアドミッション・ポリシーを定めて公表している。具体的には、「人類の叡智と歴史認識とを学び、人文・社会科学の各専門分野について自らの問題意識に即して理解する基礎的能力」、「主体的に設定した専門分野の課題を論理的に分析・考察し、自らの見解を様々な表現形式を通じて積極的に発信していく能力」、「激しく変動する現代の課題に主体的に取り組み、新たな世界の構築に貢献しようとする姿勢」を備えた者に学士の学位を授与するディプロマ・ポリシーを明示し、その上で「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」のそれぞれに対してのカリキュラム・ポリシーを定めている（資料 5-2-1-1）。

文学部におけるこうした教育研究上の目的及び養成する人材像に対し、以下の2つの点からアドミッション・ポリシーを定め、公表している。第一は「求める学生像」で、学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」と定めている。第二として、入学者に求める具体的な「知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度」に関して、「知識・技能」としてはとくに英語、国語、社会に関して高等学校までで身につけておくべきこと、「思考力・判断力・表現力」としては文理融合の観点からの総合する力と発信力、「態度」としては多様な価値観を理解しながらも主体性を持って他者と協働して学ぶ姿勢のそれぞれを定めている（資料 5-2-1-1）。

実際の入学試験に関しては、学力考査型の一般入学試験では、入試問題は入学センターを中心に全学的に作成しているが、文学部に該当する教科の入試問題に関しては「知識・技能」で設定した範囲での入試問題であることを確認している。また、『入試情報』の冊子において、前年度の各教科の入学試験に関する「昨年度の傾向と今年度の対策」の頁を設け、そのなかで出題の基本方針や注意事項などを明記することで各教科の出題範囲や要点などについて受験生への周知をはかっている（資料 5-2-1-2）。他方、学力考査型以外のA0入試（学科課題型）や公募制推薦入試では、入学センターの確認を得ながら学部学科で課題や口述試験内容を策定し、それぞれの『入試要項』において各学科・専攻ごとの課題や口述試験での設問内容を明記している（資料 5-2-1-3、5-2-1-4）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

東海大学の入試は学部ごとではなく、全学的な入試制度のもとで運営されている。全学的に入試企画委員会を設置し、文学部長が学部代表の委員を務めている。また、この委員会の下に各学部代表の委員から構成される入試企画専門委員会を置き、次年度の入学試験に対する募集方法、選抜制度について検討している（資料 5-2-1-5）。具体的には学部長を中心に学部のアドミッション・ポリシーに基づいて検討した文学部の意見等を、文学部代表委員が入試企画専門委員会において提示し、委員会での検討結果を学部を持ち帰って再検討することを繰り返すことで、最終的には文学部の意見を大学と調整した形で次年度の全学的な入試の枠組みについて決定するプロセスとなっている。したがって、文学部としては、全学的な入試制度の中で個別に設定し得る選抜方法（課題や口述試験など）に関しては学部の方針を徹底させている。最終的には全学的な入試制度や実施体制に関しては入試企画委員会で決定されるが、この結果は次年度に向けた『入試情報』のなかで公表されている（資料 5-2-1-2）。

入学者選抜の実施に関しては、各入学試験に対して入学センターから各学部に向けて公正な実施に向けた体制や諸注意が周知され（資料 5-2-1-6）、その内容を文学部教授会で教員が共有する体制となっている。入学者選抜に関しては、学部長の下で各学科長・学科専攻長および各学科・専攻から選出された入試判定委員を中心に、入学者選抜の原案作成がなされるが、学部長の下で学科・専攻間の格差などに対する合理的な判断をしている。また、最終的には学長の下で学部長が出席する全学（当該学部全体）の入学試験判定会議において判定が行われている（資料 5-2-1-5）。

なお、各入学試験における入学者選抜の公正性を担保する点では、各入学試験の志願者数、受験者数、合格者数について『入試情報』において公表している（資料 5-2-1-2）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>
 - ・入学定員に対する入学者数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
- <修士課程、博士課程、専門職学位課程>
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率

文学部においては、2018年度入学者数／入学者定員に対する入学者数比率は（以下（ ）は定員）、文学部全体では380名（370名）／超過率1.03であり、各学科・専攻では、文明学科62名（60名）／超過率1.03、歴史学科全体138名（130名）／超過率1.06（日本史専攻56名（50名）／超過率1.12、西洋史専攻51名（50名）／超過率1.02、考古学専攻31名（30名）／超過率1.03）、日本文学科92名（90名）／超過率1.02、英語文化コミュニケーション学科88名（90名）／超過率0.98である。

また、2018年度在籍学生数／収容定員に対する在籍学生数比率は（以下（ ）は収容定員数）、文学部全体では3338名（3160名）／超過率1.06であり、各学科・専攻では、文明学科249名（240名）／超過率1.04、アジア文明学科177名（180名）／未充足率0.98、ヨーロッパ文明学科212名（210名）／超過率1.01、アメリカ文明学科165名（180名）／未充足率0.92、北欧学科189名（180名）／超過率1.05、歴史学科全体697名（655名）／超過率1.64（日本史専攻245名（215名）／超過率1.14、東洋史専攻125名（120名）／超過率1.04、西洋史専攻206名（200名）／超過率1.03、考古学専攻121名（120名）／超過率1.01）、日本文学科393名（360名）／超過率1.09、英語文化コミュニケーション学科400名（360名）／超過率1.11、広報メディア学科358名（330名）／超過率1.08、心理・社会学科322名（300名）／超過率1.07である（資料 5-2-1-7、5-2-1-8）。

以上の数値から、収容定員に多少の超過が見られるが、学生数はほぼ妥当であると判断される。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

東海大学では各入学試験において要項人数を定め、各判定会議において入学者人数を把握し、その都度点検を行っている。また、年度末に最終の判定会議を設け、最終的な受け入れ人数について点検を行っている。文学部に関しては、最終的な補合判定でほぼ定員通りの入学者を確保している（資料 5-2-1-2、5-2-1-5）。

（2）長所・特色

東海大学では全学で統一した入試制度を実施しており、入学試験について適切な管理、運営が行われている。文学部に関しては、その入学試験制度の下で、各入試において適切な入学者数を確保している。

（3）問題点

東海大学の入学試験は全学的に統一した体制、制度で実施され、全体の運営としてスムーズさがある反面、試験科目の選択など学部学科の自由度が少ないことも事実である。文学部としては学部学科の特色を生かした入試の導入の検討を進める必要がある。

（４）全体のまとめ

文学部では、全学的な入試制度の下で適切な入学者選抜がはかられている。

（５）根拠資料

- 5-2-1-1 東海大学オフィシャルサイト文学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、
3つのポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/letters/educationpolicy.html>
- 5-2-1-2 東海大学入試情報
- 5-2-1-3 アドミッション・オフィス入学試験 入学試験要項
- 5-2-1-4 公募制推薦入学試験 入学試験要項
- 5-2-1-5 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-1-6 東海大学学部長会議議事録
- 5-2-1-7 2018年度 大学基礎データ 表2
- 5-2-1-8 2018年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者の推移

2018年度 文化社会学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

文化社会学部では、本学の学位授与の方針に従い、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、学授与方針に基づく教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、それらの方針を踏まえた学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定めて、東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-2-4）で公表している。

学生の受け入れ方針には、『求める学生像』と『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』が記載され、各学科への入学に際して修得しておくべき知識等の内容・水準については、各種「入学試験要項」（資料 5-2-2-1）および東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-2-4）において出願資格と併せて明示している。なお、障がいがある学生については、本学の3つの基本方針に沿って対応している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

文化社会学部では、学生の受け入れ方針に基づき、一般入試、センター試験利用入試、付属高校推薦入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試など様々な入学者選抜方法により、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。各入試の学生募集方法や入学者選抜方法は、各種「入学試験要項」（5-2-2-1）および東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-2-4）を通じて学外へ周知している。

本学では入学センターが留学生入試を除く各入学試験の運営を担い、国際教育センターが留学生入学試験の運営を担っている。各学部は両センターの指示に従って入学試験を実施し、学部が作成した判定案を、学長が委員長を務める入試判定委員会において審議し、合否判定が行われる。このような運営体制のもとで入学者選抜は公正に実施されている。

前年度の入試結果については東海大学オフィシャルサイト（資料 1-2-2-4）に掲載して

いるほか、「東海大学入試情報」（資料 5-2-2-2）に各入試の結果の他、出願状況、得点率などを掲載することで、学生の受け入れ方針に沿った学生を受け入れていることを示している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

文化社会学部の入学定員（450名）に対する2018年度の入学者数の比率は、入学者数468名で1.04倍である。学科ごとでは、アジア学科は入学定員70名に対して73名で1.04倍、ヨーロッパ・アメリカ学科は入学定員70名に対して70名で1.00倍、北欧学科は入学定員60名に対して62名で1.03倍、文芸創作学科は入学定員60名に対して65名で1.08倍、広報メディア学科は入学定員100名に対して106名で1.06倍、心理・社会学科は入学定員90名に対して93名で1.03倍である。文芸創作学科と広報メディア学科の入学者数比率がやや高いが、全体としては適正に管理されていると判断できる。（資料 5-2-2-3）

文化社会学部の収容定員は1800名であるが、2018年度は開設初年度のため収容定員は450名となり、在籍学生数は463名で、比率は1.03倍である。学科ごとには、アジア学科は収容定員70名に対して72名で1.03倍、ヨーロッパ・アメリカ学科は収容定員70名に対して68名で0.97倍、北欧学科は収容定員60名に対して62名で1.03倍、文芸創作学科は収容定員60名に対して63名で1.05倍、広報メディア学科は収容定員100名に対して105名で1.05倍、心理・社会学科は収容定員90名に対して93名で1.03倍である。全体として0.97倍から1.05倍の範囲に収まっており、適正に管理されていると判断できる。（資料 5-2-2-4）

上記のとおり、学部開設の初年度は入学定員に対する入学者比率、収容定員に対する在籍学生比率ともに適正に管理されているが、2021年度の完成年度に向けて、より適正な管理を行っていく。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

文化社会学部では、学部長・学科長・教務委員から構成される運営委員会が中心となり、

「東海大学 入試情報」（資料 5-2-2-3）や「大学基礎データ」（資料 5-2-2-5）に掲載される各種入学試験の試験結果、各学科が実施する付属高校からの推薦入学合格者との面談、アドミッションズ・オフィス入試・公募推薦入試等での面接試験の結果、各種入試で入学した学生の成績等を踏まえて、受け入れ方針の告知の仕方や入学者選抜基準について点検・評価を行っている。その結果として各入試における実施上の問題点、改善要望事項がある場合は、入試企画専門委員会に対して学部代表の委員（学部長）を通じて改善・向上に向けた取り組みを提案している。

（２）長所・特色

特になし。

（３）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

文化社会学部では、大学基準に沿って学生の受け入れ方針を定め、公表しており、その方針に沿って学生募集及び入学者選抜の制度及び運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。また、各入試の学生募集方法や入学者選抜方法に加えて、前年度の入試結果の他、出願状況、得点率などを公表している。さらに、学部開設の初年度は入学定員に対する入学者比率、収容定員に対する在学学生比率ともに適正に管理されており、2021年度の完成年度に向けて今後もより適正な管理を行っていく。

（５）根拠資料

1-2-2-4 東海大学オフィシャルサイト

5-2-2-1 入学試験要項

5-2-2-2 東海大学 入試情報

5-2-2-3 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

5-2-2-4 2018年度 大学基礎データ 表6 在籍学生数内訳、留年者数、退学者数

5-2-2-5 2018年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

政治経済学部における学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、本学オフィシャルサイトにおいて掲載し、周知を図っている（資料 5-2-3-1）。政治経済学部及び各学科のアドミッション・ポリシーは共通（資料 5-2-3-2、5-2-3-3、5-2-3-4）であり、以下の通りである。

政治経済学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

政治経済学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

国語については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修を通じて、日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力の基礎を身につけておくことが望ましい。

社会については、高校（あるいはそれと同等レベル）での科目履修（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会の中から数科目）を通じて、政治、経済、経営に関する内容の基礎を理解していることが望ましい。

数学および理科については、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

社会で発生する様々な課題に対して自分なりに考え、どのような解決策が望ましいかを文系・理系の知識・技能を総合して判断し、適切に表現できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

自ら積極的に物事に対して取り組み、多様な価値観を理解・共有して友好な人間関係を構築できること、および目標を実現するために継続的に努力すること。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受け入れ方針にもとづき、一般入試、センター試験利用入試、AO入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、留学生入試など、多様な学生を募集するため、様々な入試制度によって学生募集、入学者の選抜を行っている（資料 5-2-3-5）。多様な種類の入試を企画、実施するにあたり、学部からも委員を選出している入試企画専門委員会（資料 5-2-3-6）が大学に設置されており、問題点があれば検討がなされるため、適切性に問題はない。

学生募集の方法、入学者選抜の周知については、「入試情報」、大学オフィシャルサイトで行われている（資料 5-2-3-5、5-2-3-7）。また、各入試の結果については、「入試情報」に掲載し、受験者の参考に資するとともに、透明性を高めている。各種入試の中でも、学力系以外の入試においては、受験者に入試の趣旨・特性を周知し、選抜に携わる各教員もそれを確認することで公正かつ適切な選抜を実施している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

政治経済学部の過去5年間の定員充足率は1前後であり、また、2018年度の収容定員に対する在籍学生比率は1.06である。年度、学科によって差があるものの適切に管理されている（資料 5-2-3-8）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れ方針が適切に運用されているか、入学センターと連携を取りながらデータをチェックしている。入学センターによる依頼に基づき入学後の追跡調査の結果等を踏まえ、入試種別ごとの入学後の学修状況などを把握し、各学科長と学部長が協議しながら、入試種別ごとの目標人数などの見直しなどを実施している。こうした手続きを通じて、受け入れ方針に合致した学生の確保に努めている（資料 5-2-3-9）。

（2）長所・特色

特になし

（3）問題点

特になし

（4）全体のまとめ

受け入れ方針を定め、その方針に沿って適正に学生を選抜・受け入れており、また、必要に応じて見直しも行っているため、全体としては適切に運用されている。

（5）根拠資料

- 5-2-3-1 政治経済学部アドミッション・ポリシー
- 5-2-3-2 政治経済学部政治学科アドミッション・ポリシー
- 5-2-3-3 政治経済学部経済学科アドミッション・ポリシー
- 5-2-3-4 政治経済学部経営学科アドミッション・ポリシー
- 5-2-3-5 東海大学入試情報
- 5-2-3-6 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-3-7 東海大学オフィシャルサイト（受験生の方へ）
- 5-2-3-8 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-3-9 入学センターからの検討依頼の文章

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

法学部の学生受入方針は、学部案内・湘南・法学部法律学科（資料 5-2-4-1 p.2）のほか、本学ウェブサイト（資料 5-2-4-2）にアドミッション・ポリシーとして明示されている。

上記アドミッション・ポリシーにおいて、『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』を以下のように明示している。

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

国語では、高校での国語の履修を通して日本語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

社会では、高校での社会（世界史、日本史、地理、政治・経済、倫理、現代社会）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

数学及び理科は、文系の学問を学ぶ上で必要な自然科学的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能を総合して応用できること及びそれらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、良好な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと及び失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

また、入学試験要項においては、出願資格として「1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び2017年3月卒業見込みの者」等を列挙し、試験の種別ごとに試験科目を指定している——例えば一般入学試験（A方式）であれば英語（コミュニケーション英語ⅠⅡⅢ、英語表現ⅠⅡ）、国語（国語総合。古文漢文を除く）、選択科目（数学Ⅰ・Ⅱ・A、日本史B、世界史B、政治・経済から1科目）。これにより入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準が示されている。

身体機能等に障がいのある志願者に対しては、入学試験の実施に当たり特別配慮がなされている。また、障がいのある学生については、入学前に学習上配慮の必要な事項の確認が教学部よりなされ、学部において対応可能な事項については個別に対応している（資料5-2-4-3）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生受入方針を明示して学生募集を行うとともに、全学の制度的・統一的な取組の中で、学力選抜入試、推薦入試等により公正に、かつ、開示に堪える資料的透明性をもって入学者選抜を行っている（資料5-2-4-4）。入学選抜に当たっては、学部ごとに実施されるA0入試・公募制推薦・指定校推薦入試において入試実施委員会を学部内に設置し、同委員会が中心となって問題・評価項目の作成を行い、教授会において毎年度点検している。当該試験における入学者の面接に2名の教員があたり、しかも複数の評価項目をポイント化して選抜を行っており、面接担当者の恣意が介入することを極力排除している。このように選抜実施方法を適切に整備することにより、各種の入試は公正に実施されている（資料5-2-4-5、5-2-4-6）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>
 - ・入学定員に対する入学者数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
- <修士課程、博士課程、専門職学位課程>
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率

法学部の2018年度における入学定員は300人（入学者数336人、入学定員充足率1.12）、収容定員は1200人（在籍学生数1236人、収容定員充足率1.03）である。定員は適切に設定されており、これに見合った数の学生を受け入れている（資料5-2-4-7、5-2-4-8）。各入学試験における合否判定を厳正に行い、未充足、定員超過を可能な限り防いでいる。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

入学センター等全学の関係部署において組織的、定期的に検証が行われる。法学部としても、教授会における募集計画案、入試実施委員会の作成する問題・評価項目の点検、可否判定案の審議に際して検討するなどし、随時検証を行っている。（資料 5-2-4-6）

（2）長所・特色

学生の受け入れ方針を明示し、それに基づいて学生募集、入学者選抜を行うことにより、また、定員を設定・管理することにより、学部理念・目的及び教育目標の効果的な実現が図られている。

（3）問題点

入学するに当たって修得しておくべき知識及び障がいのある学生の受け入れ方針の明示が不十分である。学部において実施する入学試験における入学者選抜の検証結果を効果的にどうやって今後の改善に結びつけるかを検討する余地がある。

（4）全体のまとめ

学生の受け入れ方針を基礎とした適切な選抜方法の採用・運用及び適切な学生収容定員・在籍学生数を維持するとともに、これらのことを通じて教育成果を上げている。入学前に修得しておくべき知識及び障がいのある学生の受け入れ方針を、大学の明確な方針の沿う形で学部として方針を検討する。また、学部において実施する入学試験については、学部としての検証を引き続き進める。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,236	1.03	1.08

（資料 5-2-4-7）

（5）根拠資料

- 5-2-4-1 2018 学部案内 湘南 法学部 法律学科
- 5-2-4-2 東海大学オフィシャルサイト 法学部 アドミッション・ポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/law/law/educationpolicy/>
- 5-2-4-3 2018 年度特別配慮入学生一覧（サンプル）
- 5-2-4-4 2018 年度入学試験要項
- 5-2-4-5 2018 年度学部内諸委員一覧
- 5-2-4-6 11 月教授会開催通知
- 5-2-4-7 2018 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-4-8 2018 年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者の推移

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

教養学部における学生の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に定めた教育研究上の目的及び養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミッション・ポリシーとして定めている。

学部のアドミッション・ポリシーは、「教養学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。」として、「東海大学オフィシャルサイト」（資料 5-2-5-1 アドミッション・ポリシー）で明示・公開している。また、各学科・課程のアドミッション・ポリシーについても同様に明示・公開している。

入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準、またその判定方法については、各種「入学試験要項」（資料 5-2-5-2）において出願資格と共に明示している。また、障がいのある学生についても、各種「入学試験要項」（資料 5-2-5-2）において「受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者は、受験方法等について事前に問い合わせ」を行うよう記載している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学者の選抜は、大学全体及び学科・課程がそれぞれ定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各種の入学者選抜制度（『一般入学試験』や『大学入試センター試験利用入学試験』を始めとする「学力選抜型入試」のほか、学生の個性を重視する『A0 入試』や『推薦入試』など）を通して実施されている。

またそれぞれの学生募集方法は、「東海大学オフィシャルサイト（受験生の方へ）」（資料 5-2-5-3）、入試情報誌「東海大学入試情報」（資料 5-2-5-4）及び「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-2）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜基準については、学内に設置される「入試企画委員会」「入試企画専門委員会」などにより学部・学科・課程の意見を取り入れて決定され、各種「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-2）に記載されている

それぞれの選抜基準に従った合否判定案は、学部長、主任、副主任の合議を経た後、学長の下に開催される「入試判定委員会」にて全学的レベルで検討するなど、複数段階の合否判定の検討が行われており、入学者選抜における公正性・透明性を確保するための適切な措置がとられている（資料 5-2-5-5「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」）。

身体機能等に障がいがあり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者については、入学センター入学課で事前の問い合わせを受け付け、必要とする配慮の内容について検討し、特別配慮内容（試験時間延長、支援者の介助など）を回答する旨、「東海大学入学試験要項」（資料 5-2-5-2）に記載している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員に対する入学者比率は、「2018 年度大学基礎データ 表 2 学生」、表 3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移」（資料 5-2-5-6）に示される様に、学部全体で 1.05（人間環境学科が 1.01、芸術学科が 1.07、国際学科が 1.10）となっており、適切に管理されている。また収容定員に対する収容定員充足率についても、人間環境学科が 1.05、と芸術学科が 1.04、国際学科が 1.13 で適正に管理されている。

平成 27 年 4 月 17 日付の大学基準協会からの「改善報告書（大基委大評第 8 号）（大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」）」（資料 5-2-5-7）において、人間環境学科及び芸術学科では、推薦入試や A0 入試で入学者数が定員の 2 倍を超えており改善を要すると指摘された。2018 年度の推薦入試（附属校推薦及び指定校推薦、公募推薦との合算：春学期）においては「東海大学 2018 年度大学基礎データ 表 3」（資料 5-2-5-6）に示されるように、人間環境学科が 1.25 倍、芸術学科が 1.69 倍と改善されている。また A0 入試においては、芸術学科が 1.86 倍と改善したものの、人間環境学科は 3.11 倍、さらに国際学科も 2.25 倍となっており、引き続き改善の必要がある。また附属校推薦単

独で見ると、芸術学科において2.14倍となっており、併せて改善に取り組む必要があるものと考えている。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,410	1.07	1.11

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

受け入れの適切性に関しては、毎年4月に開催される第1回学部長会議において、入学センターから入試種別毎の要項人数を定めた「東海大学学部入試要項人数（案）」が示され、その案を元に各学科会議、課程会議で点検、ならびに審議が行われている。更にその後開催される第1回学部教授会において、各学科で纏められた案を踏まえ、「入試要項人数」に関する審議を行っている。（資料 5-2-5-8 教授会議事録）

そしてその結果は入学センターに伝えられ、当該年度の要項人数が決定される手順となっている。

（2）長所・特色

教養学部では入学前学習の一環として、全ての学科・課程で、AO・推薦系合格者に「研究レポート」を課している。（資料 5-2-5-9）

また付属高校からの進学者に関しても、リクルート社の「スタディサプリ」を利用したオンライン入学前学習を学科・課程毎に課している（資料 5-2-5-10）。学習状況はネット上で確認することができ、場合によっては大学教員が直接コメントすることも可能になっている。その他、入学までに提出を求める「大学入学準備課題」（資料 5-2-5-11）も課している。

これらの取り組みにより、入学予定者に大学での学習に対する心構えを持たせ、併せて専門分野に対する理解を深めさせ、入学後のスムーズな学習に備えている。

（3）問題点

文部科学省の経常費補助金の配分基準厳格化に伴い、各入試での入学手続き者数の見積もりが難しくなっている。このことは合格者数や合格最低ラインをどこに置くかの決定にも大きな影響を及ぼし、特に学力系入試において補欠合格者を出すことで全体の調整を図る方法を採らざるを得なくなっている。

（4）全体のまとめ

教養学部では、学部は元より学科・課程毎に「学生の受け入れ方針」や各種の「入学者選抜制度」ならびに「選抜基準」を大学のオフィシャルサイトや各種印刷媒体で明示して

いる。また「入学者選抜」に関しては、課程、学科、学部で原案を作成し、学長の下に於かれた「入学試験判定委員会」に於いて合議で決定されるなど、公正に実施している。

学生受け入れの適切性に関しても、年度毎に審議確認が成されており、入学定員に対する入学者比率や、収容定員に対する比率に関しても、適切に管理されていると判断できる。

（5）根拠資料

- 5-2-5-1 東海大学オフィシャルサイト 教養学部 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー アドミッション・ポリシー
- 5-2-5-2 東海大学入学試験要項
- 5-2-5-3 東海大学オフィシャルサイト（受験生の方へ）
- 5-2-5-4 東海大学入試情報
- 5-2-5-5 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-5-6 2018年度 大学基礎データ 表2 学生、表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-2-5-7 改善報告書（大基委大評第8号）（大学基準協会「改善報告書検討結果（東海大学）」）
- 5-2-5-8 2018年度 教養学部 第1回 教授会議事録（抜粋）
- 5-2-5-9 研究レポート課題
- 5-2-5-10 入学前学習スケジュール
- 5-2-5-11 大学入学準備課題

2018年度 体育学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

全学が定める学生の受入方針のもと、体育学部においても「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」を踏まえた「アドミッション・ポリシー」を設定し、本学オフィシャルサイト <https://www.u-tokai.ac.jp> において公開している（資料 5-2-6-1）。このアドミッション・ポリシーに則り、各種入試の特色を生かした課題を設定し、入学希望者に求める学生像や能力等を、東海大学入試情報（資料 5-2-6-2）や入学試験要項（資料 5-2-6-3）で示している。具体的には、公募制推薦・一般入試に実技試験を導入していること、出願書類に「スポーツ活動報告書」を含めることで、体育学部が入学者に求める学習歴や能力水準を明らかとしている。

以上のことから、学生の受入方針の適切な設定及び公表がなされていると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程（資料 5-5-6-4）に基づき、体育学部からは入試企画委員として学部長、入試企画専門委員会学部部会委員として教員1名が選出されている。この規定に則って入試問題作成、採点、判定が実施されている。体育学部内には、入試委員会が設置され、その業務内容、日程、委員会内規などが明文化されている（資料 5-2-6-5）。また、各入学試験の試験科目及び時間・配点、実技試験要領、口述試験要領も公表されている（資料 5-2-6-2）。入学試験要項内には、受験及び修学上特別の配慮が必要な志願者に対して、その内容を回答した上で出願受付を行うなど、合理的な配慮に基づいた対応を行っている（資料 5-2-6-3、5-2-6-6）。

以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制は適切に整備され、入学者選抜は公正に実施されていると判断できる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度に実施された入学試験結果により、2019年度に入学した学生数は大学オフィシャルサイトに公開されている https://www.tokai.ac.jp/about/number/num_student/（資料5-2-6-7）。その入学者数（超過率）は、体育学科106名（0.96）、競技スポーツ学科143名（1.02）、武道学科60名（1.00）、生涯スポーツ学科113名（1.02）、スポーツ・レジャーマネジメント学科60名（1.00）と、ほぼ入学定員数であり、学部全体入学定員480名に対して483名、超過率1.00であった。また、体育学部収容定員1800名に対し、在籍学生数1880名、超過率1.02である。在籍学生数は収容定員に基づいて適正に管理されていると判断できる。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

入学試験結果については、学部長会議において点検・評価が実施され、入学者数の適切な管理が確認された（資料5-2-6-8）。また、体育学部入試委員会には、「入試が適正かつ円滑に実施されるよう、入試制度を点検・評価し、必要と思われる改善策を策定」することが明文化されている（資料5-2-6-5）。入学試験に関する内容は学部教授会において、入試委員会より審議事項に挙げられ、審議・承認されている（資料5-2-6-9）。

以上のように、学生受入の適切性については定期的に点検・評価、及び改善が行われていると判断できる。

（2）長所・特色

アドミッション・ポリシーに「体育学部においてその専門性をより高めるために、基礎的な実技能力を有していることが望まれます」とされている通り、公募制推薦入試及び一般入試においては実技試験を実施している。実技試験を課さない体育・スポーツ系の大学・学部・学科が多い中、本学部においてはその特徴を活かした学生募集や入学者選抜が行われている。

（3）問題点

特になし

（4）全体のまとめ

学生の受入方針を定めて公表し、入学情報や募集要項においては、学部が求める学生像や入学者に求める学習歴、身体能力等を明らかにしている。入学者選抜も厳密な手続きの基、公正に実施されていると判断できる。入学定員や収容定員の適切な設定と管理も行われており、定期的な点検・評価・改善も実施されている。

（5）根拠資料

- 5-2-6-1 東海大学オフィシャルサイト 体育学部 3つのポリシー アドミッション・ポリシー
- 5-2-6-2 東海大学入試情報 2019
- 5-2-6-3 2019年度東海大学入学試験要項（公募制推薦）
- 5-2-6-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-6-5 東海大学体育学部組織・構造要覧
- 5-2-6-6 東海大学 2019年度入学試験要項（アドミッションズ・オフィス）
- 5-2-6-7 東海大学オフィシャルサイト 2019年度在籍者数（体育学部）
- 5-2-6-8 2018年度第2回学部長会議資料 2018年度全入試の入学試験結果について
- 5-2-6-9 体育学部教授会議事録（入試委員会）

2018年度 健康学部 自己点検・評価報告書

〔第5章〕 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

健康学部の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、「東海大学オフィシャルサイト」で次のように明記している（資料 1-2-7-1）。「建学の精神及びそれらを具現化した4つの力を踏まえ、『健康社会』の実現を目指し、身体的健康、精神的健康、社会的健康で構成される『健康』を総合的に捉え、生じている諸問題の解決を目指していくことです。そして、健康社会の創生には不可欠である、“健康に関わる多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち”、“横断的に活用して連携協働できるネットワーク力”と、“サービスを複合的にコーディネートする力”を兼ね備えた、『健康をマネジメント』できる人材、すなわち、健康・予防に関するニーズを把握する能力、多様な分野の基礎知識・技能を併せ持ち、横断的に活用し、サービスをコーディネート、マネジメントできる能力（T字型能力）をもった人材を養成することを理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます」と記載し、広く周知を図っている。

また、本学部に入学するにあたり、求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度についても「東海大学オフィシャルサイト」で明記している（資料 1-2-7-1）。例えば知識・技能の面では、英語、国語、社会、数学及び理科のそれぞれの教科において求める内容を記載している。

出願資格については、「入学試験要項」に明示している。また、障がいのある志願者や受験及び就学上特別の配慮を必要とする志願者は入学センターへの問い合わせを行うことが「入学試験要項」に記載されている（資料 5-2-7-1）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

本学部では、一般入試、大学入試センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦

入試、A0入試、留学生入試等多様な学生を受け入れるために様々な入試形態によって学生募集ならびに、入学者の選抜を公正かつ適切に行っている。学生募集の方法や入学者の選抜方法については、「東海大学入試情報」に記載されている（資料5-2-7-2）。この内容は、「東海大学オフィシャルサイト」でも確認することができる（資料5-2-7-4）。出願手続きについては、入試制度ごとに異なるため、「入学試験要項」に書類の種別や提出期限等の情報が詳細に記載されている（資料5-2-7-1）。

また、入学試験の結果については、「東海大学オフィシャルサイト」で前年度入試結果として、試験ごと掲載し公開されており、本学部の志願者に有益な情報を提供し透明性を確保している（資料5-2-7-3）。

入試制度における検討事項に関しては、学部内に入試委員会を設けて審議しているほか、学部代表委員一名が本学の入試企画専門委員会に出席し、検討を行っている。入試の判定方法においても、合否判定の公正さを保つため学部のみで行うのではなく、全学の入試判定委員会で合議の上、公正に判定が行われている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

大学基礎データ表2にあるとおり、学部開設初年度の在籍学生数は202名、収容定員に対する比率は1.01であり、適正に管理されている（資料5-2-7-4）。2018年度に新設された学部であるため、過去5年間の平均を示すことはできない。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

本学部の入学者受け入れが適正に行われているか、入学センター・入学課において組織的に検証が行われているほか、学科内の入試委員会にて、2019年度に検証を行う。さらに前年度の改善点等を検討するほか、入学者の修学状況の把握を行い、入試選抜方法等の基準の検討を進める。

（2）長所・特色

開設初年度から選抜基準の精緻化、入学後の追跡調査の検討等、入学者選抜の適正化の努力をしている。

（3）問題点

開設間もないこともあり、本学部のアドミッション・ポリシーの一層の社会的周知を図る必要がある。

（4）全体のまとめ

前述したように、アドミッション・ポリシーの一層の周知を図るとともに、選抜基準の精緻化、入学後の追跡調査を進めていく。

（5）根拠資料

1-2-7-1 東海大学オフィシャルサイト(健康マネジメント学科の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー)

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/health_studies/educationpolicy.html

5-2-7-1 2018年度東海大学入学試験要項

5-2-7-2 東海大学入試情報 2019

5-2-7-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/

5-2-7-4 2018年度大学基礎データ表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

理学部及び各学科（数学科、情報数理学科、物理学科、化学科）の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、以下のように明示している（資料 5-2-8-1）。

「理学部の教育研究上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

理学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身につけておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（物理、化学、生物、地学）の科目の中から数科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

文理融合の観点から、理系の知識・技能と文系の知識・技能を総合して応用できること、及び、それらの発信ができることが期待できること。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

多様な価値観を理解し、友好的な人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、及び、失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、一般入試、AO入試、付属校推薦、指定校推薦、公募推薦入試、留学生入試を行い、公正かつ適切に入学者選抜を行っている。2018年度入学者のうち各選抜方式で合格したものの割合(%)は、学部全体としては64.2%、6.72%、22.62%、2.46%、2.36%、1.52%である（資料 5-2-8-2 大学基礎データ表 3）。

学生募集方法は、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-8-3）および「東海大学 入試情報 2018」（資料 5-2-8-4）により公開されている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

< 学士課程 >

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程、専門職学位課程 >

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度大学基礎データ表 2（資料 5-2-8-5）にある通り、ここ5年間の入学定員充足率は、理学部全体で1.02から1.07（数学科1.04から1.10、情報数理学科1.03から1.11、物理学科1.00から1.09、化学科1.00から1.05）である。学科によって多少上下動はあるものの理学部全体としては適切に管理されている。

また、2018年度の収容定員に対する収容定員充足率は、理学部全体としては1.02（数学科1.04、情報数理学科1.06、物理学科0.98、化学科0.98）であり（資料 5-2-8-5 大学基礎データ 表 2）、在籍学生数も適切に管理されている。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,301	1.02	1.05

（資料 5-2-8-5 大学基礎データ 表 2）

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

理学部主任会において定期的に検証を行っており、選抜方式毎の入学定員などの見直しを行っている。変更が必要な場合は、学部案を大学執行部に提出している。

（２）長所・特色

いずれの学科も入学定員充足率は1以上である。また、年々適正値である定員数に近づくよう調整を行い、2017年度以降は1.00から1.05となっている（資料 5-2-8-5）。

中途退学者が出ることを考慮すると、現在の入学定員充足率が適正であると考えられるので、合格判定を慎重に行い現在の入学定員充足率を維持する。

（３）問題点

各選抜方式での入学者の割合は、理学部全体では適正であると考えているが、付属校推薦での入学者が募集定員の2倍を超えている学科がある。

付属校推薦での入学者が募集定員の2倍を超えないよう、定員管理を厳しく行う。

（４）全体のまとめ

学部・学科のアドミッション・ポリシーに基づき、一般入試、AO入試、付属校推薦、指定校推薦、公募推薦入試、留学生入試を行い、公正かつ適切に入学者選抜を行っている。また、入学定員及び収容定員は適切に設定されており、在籍学生の数は適切に管理されている。これらの学生の受け入れについては、定期的に検証を行っている

（５）根拠資料

- 5-2-8-1 東海大学オフィシャルサイト 理学部 教育研究上の目的及び育成する人材像、3つのポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/science/educationpolicy.html>
- 5-2-8-2 2018年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-2-8-3 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
- 5-2-8-4 東海大学 入試情報 2018
- 5-2-8-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

情報理工学部では「建学の精神」（資料 5-2-9-1）・「本学のミッション」（資料 5-2-9-2）に基づき、学部としての3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシー）を制定している。学生受け入れ方針を定め、学部としてのアドミッション・ポリシーを制定し、これを大学オフィシャルサイト内のホームページ（資料 5-2-9-3）に公開している。

また、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-9-4）において、出願資格を設定し情報理工学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学者選抜制度については、大学が定めた学生の受け入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など、様々な入試制度を設けている。学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-9-4）および本学オフィシャルサイト「受験・入学案内」（資料 5-2-9-5）での周知に加え、高等学校での学部説明会等に本学部所属の教職員が出向く、あるいはオープンキャンパス開催の際に個別相談の機会を設けるなどして情報提供に努めている。

入学者選抜実施のための体制整備については、大学全体として各学部・研究科から選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、選抜方法について検討を行っている。本学部としても当該委員会委員の選出を行い、それを明文化している。（資料 5-2-9-6）

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員及び収容定員の設定および在籍学生数の管理については、大学全体で取りまとめている情報「東海大学 Pocket Data 2018 年度版」（資料 5-2-9-7）だけではなく、より詳細なデータ（学科別、入試種別の志願者数、入学者数）である「情報理工学部志願者動向」（資料 5-2-9-8）を歴代の学部長が引き継ぐ形で管理している。

また、収容定員に対する在籍学生数比率の管理については、大学関係者が利用可能なポータルサイトから取得できる「大学・短大 在籍者数一覧」（資料 5-2-9-9）の資料を元に確認作業を行っており、直近5年間において、学部全体としても各学科においても、在籍学生数の過剰および未充足が発生していない事を確認している（資料 5-2-9-10）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れに関する適切性の検証については、「情報理工学部志願者動向」（資料 5-2-9-8）学科別、「大学・短大 在籍者数一覧」（資料 5-2-9-9）等の資料を、教授会および各学科教室会議において情報共有し、その点検・評価を行っている。また、また入試企画専門委員会における報告・審議の結果等についても、学部教授会等を通じて担当委員から学部全体へ報告（資料 5-2-9-11）されており、学部内においても入試についての意見交換等を行い、入試企画専門委員会へのフィードバックも実施している。

（2）長所・特色

人工知能（AI）に代表されるように、ICT 関連技術の急速な発展に伴い、この分野を専門とする技術者に対するニーズの高まりのみならず、学部教員による組織的な学生受け入れ体制の強化と適正化への努力が功を奏し、少なくとも 2012 年度以降においてほぼ一貫して志願者数の増加を実現する事ができた。今後とも、これに奢る事なく、発展スピードの速い情報理工学関連分野に対応できる高レベルな技術者を輩出できるよう、学生の受け入れを組織的に行っていく必要がある。

（3）問題点

2022年度に予定されている学部編成の改編により、学部として募集定員が1.5倍となる。改編後も、すべての学科が適正な志願者数を確保できるよう、今後とも弛まぬ努力が必要な状況である。

（4）全体のまとめ

学生の受け入れについて、その方針や入学者選抜方法の制定とその公開、および入学者数や在籍学生数の管理について、おおよそ適切に実施できているものと判断される。また、これらの状況に関して、適切な根拠による点検とその評価も組織的に行っている。

（5）根拠資料

- 5-2-9-1 東海大学オフィシャルサイト「建学の精神」
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>
- 5-2-9-2 東海大学オフィシャルサイト「第Ⅲ期中期目標（2018年度～2021年度）」
https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/
- 5-2-9-3 東海大学オフィシャルサイト「情報理工学部「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/information_science_and_t/educationpolicy.html
- 5-2-9-4 東海大学 入試情報 2019
- 5-2-9-5 本学オフィシャルサイト「受験・入学案内」
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/
- 5-2-9-6 情報理工学部各種委員名簿
- 5-2-9-7 東海大学 Pocket Data 2018 年度版
- 5-2-9-8 情報理工学部志願者動向
- 5-2-9-9 大学・短大 在籍者数一覧（2018.05.01 現在）
- 5-2-9-10 2018 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-9-11 入試企画専門委員会報告メール文面

2018年度 工学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

全学的な教育研究上の目的及び養成する人材像、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をはじめとする3つのポリシーについては本学オフィシャルサイト（資料5-2-10-1）に明示されており、これを受けて工学部ホームページ（資料5-2-10-2）にも学生受け入れ方針と共に『求める学生像』や『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』として期待する知識の内容および水準を明示している。以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表していると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

本学では学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、多様な学生を募集するために学力選抜入試をはじめ推薦入試やアドミッションズ・オフィス入試、留学生入試や編入学試験など各種入学者選抜制度を設けている。学生募集と入学者選抜方法については本学オフィシャルサイト内、「東海大学受験生情報サイト：デジタルパンフレットライブラリー」（資料5-2-10-3）にて周知すると共に、同サイトに掲載されている「学部入学試験要項」や「入試情報」、「工学部各学科専攻案内」等については印刷体の資料も用意している。さらに留学生については、同サイト「留学生入学試験要項」や本学オフィシャルサイトの英字サイト（資料5-2-10-4）での周知に加え、入学センターと国際教育センターが協働して広報・周知を行っている。

入試制度の策定から試験実施における各事項は、全学的な入試企画専門委員会にて検討される。工学部では委員を選出して入試に関する検討や改善要求を行っている。なお、この委員会の決定事項は上位組織の入試企画委員会にて検討され、最終的な承認を得ている。

「東海大学受験生情報サイト」内の「学部入学試験要項」には出願資格や出願手続き方

法をはじめ、試験上の注意、合格発表と入学手続き方法について記載している。特に出願手続きは入試制度毎に異なるため、必要書類やWeb登録方法の種別と提出期限、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為への対処等についても詳細に記載している。これらの措置によって公正かつ公平な入学者選抜が実施でき、学生の受験時の不安低減に努めている。

入学者選抜（合否判定）は各アドミッション・ポリシーを規範として、入学者選抜試験ごとに入学センター入学課より提示された入学判定資料に基づき、学部入試判定委員会にて厳正なる協議の上に判定案を作成し、工学部長が最終的な判断を行い、上位組織の大学入試判定委員会にて最終的な決定がなされる。

さらに各入学試験結果についても「入試情報」に出願状況の他、得点率などを掲載し、合理的かつ公平な入学者選抜が実施されたことを担保すると共に、工学部各学科専攻を志望する学生へ有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。以上のことから、学生の受け入れ方針に基づき学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していると判断できる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

<p>評価の視点</p> <p>○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理</p> <p><学士課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <p><修士課程、博士課程、専門職学位課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率

2014～2018 年度における工学部の入学定員に対する入学者数比率と編入学生数の平均値は東海大学 2018 年度大学基礎データの表 2（資料 5-2-10-5～6）および表 3（資料 5-2-10-7）より、また収容定員に対する在籍学生比率と 2018 年度在籍学生数は工学部調査結果（資料 5-2-10-8）より下表の通りとなる。

入学定員に対する入学者数比率（5年間平均）	編入学定員に対する編入学生数（編入学定員数0名のため、5年間の平均者数で示す。）	収容定員に対する在籍学生数比率（5年間平均）	2018年度の在籍学生数
1.05	17名／年	1.04	5867名

入学者定員の確保について、各入学試験における合否判定は学部入試判定委員会において厳正に行う。この結果は上位組織の大学入試判定委員会にて再検討され、最終的な決定がなされる。この際、入学課と連携して入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策を取ると共に、未充足を防ぐために補欠合格を行うことで欠員の回避を行っている。以上のことから、適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、年度ならびに学科専攻単位の変動はあるが在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していると判断できる。

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

学生募集や受け入れ方針については前述の通り、本学オフィシャルサイトや「入試情報」、さらに「学科案内（工学部各学科専攻）」にて大学をはじめ工学部、各学科専攻のアドミッション・ポリシーが明示されているが、これらは毎年、学部と各学科専攻にて見直しを行っている。なお、学生の受け入れ方針が適切に運用されているかの判断は、入学後の学生追跡調査が入学課により行われ、定期的に検証されている。この結果を踏まえ、入試制度の改革や指定校推薦入試における指定校選定の資料等に活用している。以上のことから、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っており、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているとは判断できる。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

平成 28（2016）年度以降、定員管理に係る私立大学等経常費補助金の取り扱い、すなわち入学定員充足率の厳格化（適正化）が始まり、「平成 31（2019）年度から入学定員充足率が 1.0 倍を超える入学者に見合う額を減額する予定」とされていることから、今後は入学定員充足率を（補助金の増額措置対象である）0.90～0.95～1.0 の範囲に収める必要がある。2018 年度における工学部の入学定員充足率は 1.02 であったが、前述の補助金の増額措置の対象である 0.90～0.95～1.0 の範囲に収めた場合、退学者等により収容定員に対する在籍学生数比率の低下が懸念されるため、如何に在籍学生数比率を維持し低下を防ぐかが問題となる。

（4）全体のまとめ

教育研究上の目的及び養成する人材像、学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をはじめとする 3 つのポリシー、そして各種入学者選抜制度の結果を受けて、工学部ならびに各学科専攻は適切に入学者の確保に努めている。

（5）根拠資料

- 5-2-10-1 東海大学オフィシャルサイト：教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（学部） <https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>
- 5-2-10-2 東海大学工学部ホームページ：教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/engineering/educationpolicy.html>
- 5-2-10-3 東海大学受験生情報サイト：デジタルパンフレットライブラリー
<http://www.tokai-adm.jp/library.html>
- 5-2-10-4 東海大学オフィシャルサイト：英字サイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/undergraduate.html>
- 5-2-10-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-10-6 2018年度 大学基礎データ 表2 学生 編入学
- 5-2-10-7 2018年度 大学基礎データ 表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-2-10-8 2014_18年度工学部在籍学生数調査結果

2018年度 観光学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

観光学部では、東海大学オフィシャルサイトの「観光学部」アドミッション・ポリシーにおいて学生の受け入れ方針を設定し、公表している（資料 5-2-11-1）。

本学部が『求める学生像』として、「観光学部観光学科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材を求めます。」としている。その能力とは、入学者に求める知識・技能として英語、国語、社会、数学及び理科に関して必要とする能力を具体的に定めている。思考力・判断力・表現力としては、「文理融合の観点から、文系の知識・技能と理系の知識・技能とを総合して応用できること、およびそれらの発信ができることが期待できる」ことと定めている。主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度として、「多様な価値観を理解し、友好的人間関係を築くことができること、物事に対して挑戦的に取り組むこと、および失敗や挫折を乗り越えて目標を実現しようとするのが期待できること」としている（資料 5-2-11-1）。

こうした方針を理解する入学希望者に対しては、「入学試験要項」において出願資格を設定し本学部の期待する能力および水準を明示している。なお、各種推薦入試、アドミッション・オフィス入試（以下「A0 入試」とする）、留学生入試においては面接試験と小論文試験を行うなどの方法により能力を判定している（資料 5-2-11-2）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

観光学部では、付属推薦入試、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0 入試、留学生入試など多様な学生を募集するため、各種入試制度を採用している（資料 5-2-11-2）。

学生募集方法、入学者選抜方法に関する情報は、「入試情報」にて入試概要（入試制度）

やオープンキャンパスや学部学科説明会の日程と内容、学費や奨学金制度を公表している（資料 5-2-11-3）。「入学試験要項」には、募集人員、出願資格、試験日程、試験科目、配点、選抜・選考方法、試験場所、試験上の注意、合格発表・入学手続き等が記載されており、学生募集は公平かつ適切に実施されている（資料 5-2-11-2）。

本学では「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」を定めている（資料 5-2-11-4）。その中で入試企画委員会、入試企画専門委員会学部部会、入試運営本部、入試実施本部及び入試判定委員会により各委員会等の業務分掌を明示している。入試に関する広報については、各学部より選出される常任広報委員から構成される常任広報委員会において検討および承認がなされている（資料 5-2-11-5、5-2-11-6）。

学部においては、大学の各種入試日程に応じて学科主任を中心に各入試の担当者を決定して入試に臨んでいる（資料 5-2-11-7）。選考に関しては学科主任並びに学部長の承認をもって学部としての判定を行った上で、大学の入試判定委員会で本学部の入試判定委員と他学部の入試判定委員の合議の上公正に判定している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員および収容定員等に関する情報は、東海大学オフィシャルサイト上の「情報の公表」の「学生について」において最新の入学者数、収容定員、在学者数を公表している（資料 5-2-11-8）。本学部は、定員 800 名に対して 8 セメまでの在籍学生（2018 年 11 月 1 日現在）が 870 名と超過率が 1.09 と定員超過の状態である。2018 年度は定員 200 名に対して入学者が 210 名であり、超過率は 1.05 であった（資料 5-2-11-9）。教員間で入学者情報を共有し、他大学との競合状況を把握することにより超過率が 1.00 に近づくように努力している。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

本学には入試企画専門委員会並びにその上位組織である入試企画委員会が設置されており、本学部の学生募集と入学者選抜のあり方に関して毎年度検証が行われており、公正か

つ適切に入試が実施されるよう努めている（資料 5-2-11-4）。

観光学部においては教授会において学部長会議での入試結果の共有化を図り、入試方法ごとの能力（特に英語能力および GPA）の進化度を分析している。

（2）長所・特色

観光学部の特徴である実務志望者を育成するため、観光に関連する実習・研修科目やインターンシップを含めたキャリア開発科目など観光事業を実体験する科目を充実させている。実習・研修等を通じて「観光・サービス産業やそれらの研究分野に貢献できる人材」の育成に向けた教育を推進している結果、観光産業への就業実績など一定の成果を残している。

（3）問題点

特段大きな問題点はないが、近年は東海大学に限らず「観光」を専門とする学部や学科あるいは専攻を置く大学が徐々に増えている。そのため、大学間の競合条件が厳しくなりつつあると同時に入試合格者のうちどの程度の入学生数を見込めるかを予想することが困難になりつつある。

（4）全体のまとめ

学生の受入れ方針や受入れ方法および入試の結果に関しては、大学の理念・目的を踏まえた観光学部の取組等はウェブサイト等を通じて、学生、受験生及び教員等に周知するとともに社会に対し公表している。

現在までのところ、本学部において定員割れは生じておらず、むしろ入学合格者を調整する作業が難しくなっている状況である。しかし、本学部を取り巻く環境は、近年の観光需要の拡大、特に訪日外国人旅行者の増加に伴い社会の注目度が高まっており、PDCA サイクルを介しつつ、入学生のニーズや意欲に見合っ見直しを図っていく必要性を認識している。

（5）根拠資料

- 5-2-11-1 東海大学オフィシャルサイト（観光学部アドミッション・ポリシー）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/tourism/educationpolicy.html>
- 5-2-11-2 2018 年度東海大学入学試験要項
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-16&FL=0&startpage=4
- 5-2-11-3 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/
- 5-2-11-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-11-5 東海大学常任広報委員会規程
- 5-2-11-6 東海大学学部等広報委員会規程
- 5-2-11-7 2018 年度観光学部入試等の担当割り振り表
- 5-2-11-8 東海大学オフィシャルサイト（情報の公表）
https://www.u-tokai.ac.jp/public_information/
- 5-2-11-9 2018 年度 大学基礎データ 表 2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて、学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定している。この学生受入れ方針の中では、本学部が求める学生像ならびに入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度について述べている。学生受入れ方針は、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-1）に記載・公表し、広く周知を図っている。

各学科の学生受け入れ方針は「学部案内」（資料 5-2-12-2）に記載している。

各種の「入学試験要項」（資料 5-2-12-3～7）において、出願資格を設定し本学部が入学希望者に期待する知識の内容及び水準について明示している。これらは本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）にも掲載している。

障がいがある学生の受け入れについては、大学全体の方針「東海大学の障がい学生支援に関する取り決めについて」（資料 5-2-12-9）に則って対応している。「入学試験要項」にて、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は出願前に申し出るよう注意喚起している。申し出のあった場合は、学生本人の希望と本学部の配慮内容のすり合わせを行った上で、出願を認めている。

以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表していると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受入れ方針に則り、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試など、多様な入試制度を設けている。各入試では、面接、調査書、学科試験等を用いて、アドミッション・ポリシーの理解および基礎学力を判定し、選抜している。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、各種「入学試験要項」、「東海大学 入試情報」（資料 5-2-12-10）、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）への掲載の他に、オープンキャンパスの際に相談を受けるなどして情報提供に努めている。

留学生には、本学オフィシャルサイト（英字サイト）（資料 5-2-12-11）を通じて、学生募集方法、入学者選抜方法の周知を行っている。

大学全体として、各学部より選出の委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、入試について検討を行っている。本学部からもこの委員会に委員を選出している。また、大学全体として、各学部より選出の委員で構成される常任広報委員会を組織し、広報活動の検討を行っている。本学部からこの委員会に委員を選出している。さらに、本学部内に広報委員会を設置し、学部の広報活動の検討を行っている（資料 5-2-12-12）。

各種「入学試験要項」において、入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。

選抜方法や選考方法については、各種「入学試験要項」において、学科試験、小論文、面接試験、調査書がどのように評価され合否判定に用いられるかを明示している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-12-8）に掲載しているほか、「東海大学 入試情報」に記載している。また、「東海大学 入試情報」には出願状況の他に、得点率や出題者からのアドバイスなども掲載し、本学部を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していると判断できる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・ 入学定員に対する入学者数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率

本学部では、入学定員を各学科 80 名、学部全体で 320 名と設定している。この数値は、本学部のある高輪校舎施設の収容力ならびに学部の教員体制の制約のもとで一定レベル以上の教育サービスを継続して提供できることを念頭に設定されたものである。2018 年度大学基礎データ表 2（資料 5-2-12-13）にあるとおり、定員充足率（表 2：収容定員充足率）は 1.05 となっており、適切に管理されているといえる。

本学部における入学者数の定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げることで定員超過を防ぐ施策をとっている。

以上のことから、適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を

収容定員に基づき適正に管理していると判断できる。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
1,342	1.05	1.10

(大学基礎データ 表2 学生)

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているかについて入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を入試制度の改革等に活用している。

以上のことから、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っており、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているとは判断できる。

（2）長所・特色

本学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生受け入れ方針を適切に定めて公表している。そして、学生受け入れ方針に基づいて、学生募集及び入学者選別の制度を適切に整備・運営し、入学者選抜を公平に実施している。適切な定員を設定して学生受け入れを行った結果、在学学生数を収容定員に基づいて適正に管理できている。

（3）問題点

特になし。

（4）全体のまとめ

これまでに述べたとおり、学生の受け入れについて大学基準が定めている各点検・評価項目を概ね満足していると判断できる。点検・評価を継続してゆく。

（5）根拠資料

5-2-12-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー

5-2-12-2 2018年度東海大学 情報通信学部（案内）

5-2-12-3 2018年度東海大学入学試験要項 アドミッションズ・オフィス入学試験（学科課題型）

5-2-12-4 2018年度東海大学入学試験要項 同窓会アドミッションズ・オフィス入学試験

5-2-12-5 2018年度東海大学入学試験要項 公募制推薦入学試験

5-2-12-6 2018年度東海大学入学試験要項 指定校推薦入学試験

- 5-2-12-7 2018 年度東海大学入学試験要項 一般入学試験・センター試験利用入学試験
- 5-2-12-8 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
- 5-3-10-9 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-2-12-10 東海大学 入試情報 2018
- 5-2-12-11 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト
- 5-2-12-12 2018 年度情報通信学研究科・情報通信学部 各種委員一覧
- 5-2-12-13 2018 年度 大学基礎データ 表2 学生

2018年度 海洋学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れ方針については、海洋学部において設定したポリシーを基に各学科が設定している。また、公表においては本学オフィシャルサイト 学科紹介（資料 5-2-13-1）及び本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（資料 5-2-13-2）で各学部・学科ごとに掲載している。

方針の決定においては学部教育目標を基に設定した各学科の教育目標を実現するための能力について、各種「入学試験要項」（資料 5-2-13-3）において、出願資格を設定し本学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。これらは本学オフィシャルサイト（資料 5-2-13-1）にも掲載している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

各入試において、各学科の受け入れ方針に基づいて、選抜試験が行われている。これらの方針については、それぞれの入学試験要項（資料 5-2-13-3）、東海大学入試情報（資料 5-2-13-4）、東海大学オフィシャルサイト（資料 5-2-13-1）で公開し、それに基づき厳正な選抜試験を行っている。

入試の実施については入学センターにより実施体制決済事項として管理しており、各学部で実施された入試に伴う学科判定案については、学部長と検討し、学部案として入学センターに提出している。以上の措置により、学生募集方法及び入学者選抜方法において適切性を確保している。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-13-1）に掲載しているほか、「東海大学 入試情報」に記載している。また、「東海大学 入試情報」には出願状況の他に得点率なども掲載し、入学者選抜の透明性を確保する措置を適切に行っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

各入試の募集定員については、入学センターより各試験での目標合格者数が提示され、それに基づき各学科での審議結果を海洋学部教授会にて審議している。

収容定員に対し、在籍学生数の管理については、学科定員管理を基本としており、前年の入試結果及び過去の結果を踏まえて、各入試での合格者を入学センター、学部長、学科長が検討し、最終的に各判定会議で決定している。2018年度における入学定員に対する入学者数（資料 5-2-13-5）は0.97であったが、2017年度は1.03であり、定員の1割以上を超えている学科の調整の結果である。また、継続的に入学定員を満たしていない学科については、学科教員による高校訪問を実施するなどの広報対策を講じている。

2018年度入学者数に対する入学定員	2018年度在籍者数に対する収容定員
0.97	1.00

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

2018年度生より大学統一の基礎学力テストは廃止されたが、外部試験のGTECが導入され、入学者の英語力を客観的に評価できるようになった。また、本学の育成すべき4つの力を評価するため、外部試験を導入した、この結果を学部・学科別に分析しており、他大との比較を含めた結果について教育力向上を目指してFD研修として実施している。このことから、入学試験の実施結果を多角的に評価できるようになり、これらの状況については、各学科・専攻での会議において情報共有し、学生の受け入れ方針が適切に運用されているかの検討を行っている。

（2）長所・特色

海洋学部が立地する清水校舎は、海洋学部1学部であることから、職員に対しても学部の理念・目的を周知するに適した環境であり、新年及び新学期の2回、学部長講話によって学部の理念と目的が周知されていること。また、学部及び学科のポリシーは清水校舎のポータルサイトにて清水校舎全ての教職員が常に確認できるようにしている。

（3）問題点

志願者は入試種別において学部の教育内容の理解度に若干の差異が見られる様になって来ている。すでに努力をしているが、海洋学部の理念と目的の重要性を広報戦略によってさらに周知する必要がある。しかし大学全体の広報戦略と学部で検討している広報戦略に多少の温度差があり、学部の独自性を出しにくい。今後、大学全体と地方校舎の広報戦略について詳細なすり合わせの必要がある。

（4）全体のまとめ

海洋学部の理念と目的は明確で有り、それらについて一般社会、学生、教職員への周知も行っている。2018年度カリキュラムにおいて引き続き3つのポリシーを基に教育目的の実現に努める。

（5）根拠資料

- 5-2-13-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
- 5-2-13-2 東海大学海洋学部オフィシャルサイト 学科紹介
<http://www.scc.u-tokai.ac.jp/>
- 5-2-13-3 2018年度東海大学入学試験要項
- 5-2-13-4 東海大学 入試情報
- 5-2-13-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れにあたっては、本学の建学の精神に基づき、医学部医学科・看護学科、各々でアドミッション・ポリシーを、学部としてカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを定めており、これらは大学オフィシャルサイト（資料5-2-14-1-1）で公表している。

このうち、アドミッション・ポリシーにおいて、入学前の学習歴や学力水準、求める学生像等について記載しており、これらは、学部が定めるカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの整合が取れている。また、受験生への周知においては、学科パンフレットや入試要項からもオフィシャルサイトへの誘導を図っている。（資料5-2-14-1-2）以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表していると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

医学部における教育の目標（カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）や養成する人物像の達成に向け、各学科多様な手法で入学者選抜制度を設定（推薦系、学力系）し、実施している（資料5-2-14-1-3）。なお、添付資料に記載がされていない入学者選抜試験として、「付属推薦入学試験」「編入学試験」を実施している。

これらの運営にあたって「一般入試」では、複数日・複数試験場で実施をしており、受験生の配慮を行うとともに、身体に関する障がいについては事前の本人からの申し出に基づき、個別に試験場での配慮を実施している。

また、選抜段階においては、当該学科以外の教員を含む委員で構成される「判定委員会」で判定を行い、個人を特定する情報（氏名や受験番号、性別等）の記載のない資料が使用されている。なお、看護学科においては厚生労働省の定める看護師等養成所の運営に関する

る指導ガイドライン（資料 5-2-14-1-4）に沿った入学者選抜を実施している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

医学部における入学定員の充足率は、医学科 89.0%（秋学期入学の編入学 15 名除く）、看護学科 98.8%となっている。特に医学科は定員の不足が生じた段階で繰上げ合格を出すなど、より厳格な運用に努めている。なお、医学科は秋学期入学の編入学 15 名を加えると充足率は 101.7%となり、定員の厳格な運用が実施されている。（資料 5-2-14-1-5）

また、収容定員に関する在籍比率では両学科とも補助金対象の範囲内（医学科 102.3%（10/1 付）、看護学科 104.5%）で運用されている。（資料 5-2-14-1-6）

以上のことから、適切な定員を設定し、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していると判断できる。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

各学科の教授会において、入学手続き状況・入学者数については報告されている。次年度の入学者選抜の検証や改善提案については、医学科では「入試企画検討委員会」、看護学科では「入試広報委員会」において検討がされ、「入試企画専門委員会」に答申し審議を行う。「入試企画専門委員会」での承認事項は「入試企画委員会」、「学部長会議」での承認を受け、理事長稟議・決裁の後、決定される。

（2）長所・特色

学科の意向を汲みながら、医学科・看護学科で各々に推薦系・学力系の多彩な入学者選抜制度を展開している。（資料 5-2-14-1-3）

（3）問題点

入学定員の充足において、現行看護学科の繰上げ合格の決定方法では残り若干名、という段階での繰上げが難しい。今後更に厳格化される入学定員の充足率を勘案すると、医学

科のように補欠対象者の発表とともに、1人ずつの繰上げ決定に対応できる手法（制度）適用が必要と考える。

（4）全体のまとめ

学生の受け入れに関し、各種ポリシーの策定・公開は適正に展開がされていると判断する。また、入学者選抜の公正・適正についても判定委員会の構成や運用方法に問題はないと判断する。入学定員・収容定員の管理について、一部改善をした方がよい箇所はあるが、現況では大きな問題なく運用が出来ていると判断する。

（5）根拠資料

5-2-14-1-1 東海大学オフィシャルサイト 医学部 教育研究上の目的及び養成する人物像、3つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/educationpolicy.html>

5-2-14-1-2 2019年度医学科パンフレット・看護学科パンフレット

5-2-14-1-3 2019年度入試実施表

5-2-14-1-4 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン

5-2-14-1-5 2018年度入試結果（春入学）

5-2-14-1-6 2018年4月学科別在籍人数表・2018年10月学科別在籍人数表

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

大学全体・医学部のアドミッション・ポリシーに則り、看護学科の教育目標に共感できる人材育成を目指しており、目標を達成するために自ら学ぶ意欲を持った人を求めていることを公表している（資料 5-2-14-2-1～3）。学生の受け入れ方針の設定は、各種入学試験要項（資料 5-2-14-2-4～7）や学科パンフレットデジタル版（資料 5-2-14-2-8）に明示している。また、これらを基にオープンキャンパスにおいて、学科の求める人材像や学生受け入れ方針を説明している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

看護学科入試広報委員会を設置（資料 5-2-14-2-9）し、委員長は入試企画専門委員会に出席し情報を共有するとともに変更等が生じた場合（資料 5-2-14-2-10～11）は、医学部看護学科教授会議（資料 5-2-14-2-12～15）で検討を行っている。公正な入学者選抜に関しては、国家資格取得を目指す必要があるため厚生労働省の定める看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（資料 5-2-14-2-16）に沿った入学者選抜を行っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>
- ・入学定員に対する入学者数比率

- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
- < 修士課程、博士課程、専門職学位課程 >
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率

2018 年度看護学科 85 名定員で入学者数は 83 名、在籍学生比率 0.98 であった（資料 5-2-14-2-17）。

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

- 評価の視点
- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
 - 点検・評価結果に基づく改善・向上

2018 年度より医学部に改組改編され、センター試験利用入試・一般入試応募者が 1,351 名（資料 5-2-14-2-18）と増加し、看護に関心の高い学生の確保につながった（資料 5-2-14-2-17 健康科学部看護学科 2017 年度志願者数）。

（2）長所・特色

編入生入学者を若干名にすることで、学部学科生枠を 1 学年 10 名増やし学生募集を実施した。国家資格取得を目指すため、国の方針（資料 5-2-14-2-16）に則り、4 回実施している留学生入試を見直し、面接のない方式や科目設定のない入試について検討した（資料 5-2-14-2-12）。国家試験出題基準等から、入試科目の見直し等を随時実施した（資料 5-2-14-2-13～15）。

（3）問題点

現状としては特に大きな問題はないが、私立系の看護大学が急速に増加しているため、学生の受け入れに関して、多角的に情報収集し随時検討を行うことが必要である。

（4）全体のまとめ

改組改編の影響を受け、受験生増加につながったことにより、質の高い学生確保ができた。2018 年度生から PROG（4 つのカアセスメントテスト）を受験（資料 5-2-14-2-19）し、リテラシーとコンピテンシーのバランスについて、学修を重ねる中での成長を促す必要がある。

（5）根拠資料

5-2-14-2-1 大学全体の 3 つのポリシー

<https://www.u-tokai.ac.jp/about/policy/>

5-2-14-2-2 看護学科 3 つのポリシー

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/medicine/faculty_of

_nursing/educationpolicy/

- 5-2-14-2-3 医学部看護学科のアドミッション・ポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/about/philosophy_history/concept/admission_policy_2018.html
- 5-2-14-2-4 公募制入試要項
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-18&FL=0&startpage=36
- 5-2-14-2-5 一般入試（A方式）
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-18&FL=0&startpage=15
- 5-2-14-2-6 大学センター入試
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-18&FL=0&startpage=24
- 5-2-14-2-7 一般入試（B方式）
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-2-18&FL=0&startpage=23
- 5-2-14-2-8 看護学科デジタルパンフレット
https://edu.career-tasu.jp/p/digital_pamph/frame.aspx?id=4845900-3-177&FL=0
- 5-2-14-2-9 医学部看護学科入試広報委員会申し合わせ
- 5-2-14-2-10 第2回入試企画専門委員会（学部部会）議事録
- 5-2-14-2-11 国際教育センター送付資料 2020年度看護学科留学生入学試験について
- 5-2-14-2-12 医学部看護学科 2020年度以降の留学生入学試験について
- 5-2-14-2-13 2018年度第8回医学部看護学科教授会議事録
- 5-2-14-2-14 2018年度第9回医学部看護学科教授会議事録
- 5-2-14-2-15 2018年度第10回医学部看護学科教授会議事録
- 5-2-14-2-16 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン
- 5-2-14-2-17 東海大学 2018年度大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-14-2-18 東海大学 2018年度医学部（医学科・看護学科）入学試験結果
- 5-2-14-2-19 2018年度第1回教育支援センターFD・SD研修会資料

2018年度 経営学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学部・学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（資料 5-2-16-1, 2）は、本学オフィシャルサイト上の学部紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」において、「知識・理解」、「汎用的技能」、「態度・指向性」の3つの能力を備えたと認められる者に学位の授与することを表明している。「知識・理解」とは経営学的知識・ツールを修得すること（経営学科）、観光学についての基礎知識と変化に対応する基礎能力（観光ビジネス学科）を意味する。「汎用的技能」とはビジネスプランを作成し実行できる能力（経営学科）と専門分野での問題解決能力（観光ビジネス学科）を、「態度・指向性」とは経営目標達成のために果敢に取り組む力（経営学科）と多角的視点を持てる気づき力（観光ビジネス学科）を指す。

学部・学科の入学受入れの方針については「研究教育上の目的及び養成する人物像」の項で明示している。経営学科では自律的な人間性の涵養と経営センスの修得の人材育成であり、観光ビジネス学科ではグローバル化する社会での観光産業と地域活性化に貢献できる人材の養成を表明している（資料 5-2-16-1, 2）。そこで入試前の学習歴、学力水準、能力については入試形態別に「東海大学入試情報 2019」や本学オフィシャルサイトの入試概要の「応募資格」において明らかにしている（資料 5-2-16-3）。また入学希望者に求める水準については同オフィシャルサイトの入試概要の「学部入試前年度結果」で公表されており、判定方法が明確である（資料 5-2-16-4）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学受入れの制度や運営体制を適切に整備し、入学受入れを公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学受入れ制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学受入れ実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学受入れの実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学受入れの実施

東海大学のオフィシャルサイトにおいて経営学部学生の受け入れ方針を、教育研究上の目的及び養成する人材像と3つのポリシーを示しており、そのうちのアドミッション・ポリ

シーに求める学生像を具体的に記している。（資料 5-2-16-1）

学生募集方法及び入学者選抜制度については、入学広報誌「東海大学入試情報 2019」に提示され、入学説明会等の広報活動において活用されている。（資料 5-2-16-3）

前出の「東海大学入試情報」は本学の入試企画委員会において検討・承認を経たものである。（資料 5-2-16-5）

2018年度の入試結果については、前出の「東海大学入試情報 2019」に提示され、公正な入学選抜が実施されていることが報告されている。オープンキャンパス、大学のオフィシャルサイト、テレビ広告、主要な全国紙や地方紙等で、オープンに、学生募集を行っている。

入学者選抜については、出願資格、募集人数、試験日、試験科目や配点、選抜方法、選考基準などを明示し、公正性、適切性の確保を図っている。（資料 5-2-16-3）

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

経営学部は 2013 年度開設の学部で、2016 年度で完成年度を迎えた。学部の収容定員は 920 名で、2018 年 11 月 1 日現在で在籍学生数は 813 名であり、在籍学生比率は 0.88 となっている（資料 5-2-16-6）。

経営学科の収容定員は 600 名で、2018 年 11 月 1 日現在での在籍学生数は 574 名であり、在籍学生比率は 0.96 となっており、収容人数を若干不足している状況である。今後も学生数の安定的な確保を目指すべきである。一方、観光ビジネス学科の収容定員は 320 名で、2018 年 11 月 1 日現在で在籍学生数は 239 名となっており、在籍学生比率は 0.75 で、充足率が不十分である（資料 5-2-16-6）。しかしながら、観光ビジネス学科の在籍学生数は 4 年生が 49 名、3 年生が 55 名、2 年生が 64 名、1 年生が 80 名と概ね在籍学数は年を追うごとに増加傾向にあり、学科設立当初よりも改善されてきている。今度も継続して学生数を増やしていく努力が必要である（資料 5-2-16-6, 7）。

2018 年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5 年間平均)
813	0.88	0.95

（資料 5-2-16-6 より作成）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

2017年度は入試企画専門委員会（学部部会）を計4回開催して学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っている（資料 5-2-16-8）。委員会は入学センター所長を委員長として各副学長、各センター所長、教学部長、大学運営本部長、事務部長、各学部選出の委員で構成され、各大学入学者選抜試験の分析結果に基づいて、2019年度大学入学者選抜試験の検討を行い、同実施要項の見直しを行うことによって定期的な点検・評価を行っている。経営学部では学部選出委員より或いは主任より学科会議において委員会報告を受け、2019年度大学入学者選抜試験の検討事項を各学科で検討を行い、学部・学科の意見を取りまとめて委員会承認に至っている（資料 5-2-16-5）。

（2）長所・特色

学生の受け入れ方針そして入学者選抜制度が適切に整備され、その制度について点検・評価が行なわれることで、2018年度入試では経営学科と観光ビジネス学科の両学科で学部創設後これまで達成できなかった定員を充足する結果を得た。

（3）問題点

2018年度は経営学科と観光ビジネス学科の両学科で定員を充足したが、全学年の在籍学生数は定員を充足していない状態が続いていることが問題点としてあげられる。そこで、今後継続的に両学科で定員を充足する努力が必要である。そのために本学部の特徴を出す必要がある。そのひとつとして、本学部が位置する九州において九州の地で学んでこそ効果があがる人材育成のポリシーと教育、そしてその学びの充実をアピールする方策を図っていく。

（4）全体のまとめ

経営学部としての学生の受け入れ方針はオフィシャルサイト上で学部としての3つのポリシーで明言されており、教育研究上の目的及び養成する人材像についても明確に示されている。その方針に基づき、学生募集や入学者選抜制度や運営体制は適切に整備され、入学者選抜が校正に行なわれていることをオフィシャルサイト上でオープンにしている。2013年度の学部創設以来、学部の定員を充足することができていなかったが、そうした努力によって2018年度では学部創設以来、初めて経営学科と観光ビジネス学科の両学科で定員を充足することを達成した。今後は定員充足を継続するとともに、学部の特徴を出すような工夫を行い、教育の充実を図っていく。

（5）根拠資料

- 5-2-16-1 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（経営学科）
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/department_of_business_administration/educationpolicy/
- 5-2-16-2 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（観光ビジネス学科）
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/business_administration/department_of_tourism_manegement/educationpolicy/
- 5-2-16-3 東海大学入試情報 2019
- 5-2-16-4 学部入試前年度結果
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/result_apply
- 5-2-16-5 2017年度第4回入試企画専門委員会(学部部会)議事録
- 5-2-16-6 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-16-7 経営学部在籍学生数（2016年11月1日）
- 5-2-16-8 2017年度第1回入試企画委員専門委員会（学部部会）

2018年度 基盤工学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学部の学生の受け入れ方針、学位授与方針および教育課程の編成方針については、本学オフィシャルサイト上の学部紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」（資料 5-2-17-1）に公表している。基盤工学科および医療福祉工学科の学位授与方針および教育課程の編成方針についても本学オフィシャルサイト上の学科紹介の「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」（資料 5-2-17-2、5-2-17-3）において公表している。

「東海大学入試情報」（資料 5-2-17-4）において出願資格、学部の期待する知識の内容及び水準について明示している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受け入れ方針に基づき、多様な学生を募集するため、一般入試、センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、AO入試、留学生入試等の様々な入試制度を設けている。障がいがあり合理的配慮が必要な場合は、「入学試験要項」にて、出願前に申し出るように注意喚起を行っている（資料 5-2-17-5）。申し出のあった学生については、合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。

学生募集方法及び入学者選抜制度については、「東海大学入試情報 2019」に提示している（5-2-16-4）。「東海大学入試情報 2019」に、前年度の入試結果を提示しており、公正な入学選抜が実施されていることが報告されている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

基盤工学部の入学定員は140名、収容定員は560名である。2018年の在籍学生数は383名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は0.68である（資料 5-2-17-6）。入学定員に対する入学者比率（5年間平均）は0.77である（資料 5-2-17-6）。未充足を解消するために、オープンキャンパス、高校訪問、模擬授業などの一般的な広報活動に加えて、学部が中心となって、世界一行きたい科学広場 in 熊本（資料 5-2-17-7）、マイコンカーラリー（資料 5-2-17-8）、WRO ロボットコンテスト（資料 5-2-17-9）などの高大連携イベントを開催している。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
383	0.68	0.77

（資料 5-2-17-6 より作成）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生受け入れの適切性についての全学的な事項は、入試企画委員会、入試企画専門委員会（資料 5-2-17-10）において検討している。学部においては、入試企画専門委員または学科主任が中心となり入学者選抜試験の見直しを行っている。また、広報活動については、全学的な事項は、常任広報委員会（資料 5-2-17-11）で行い、九州キャンパスに特化したものは、九州キャンパス広報会議（資料 5-2-17-12）を開催し検討している。

（2）長所・特色

高大連携イベントを開催し、学部の魅力を伝えるよう努力している（資料 5-2-17-7、5-2-17-8、5-2-17-9）。

（3）問題点

本学部は、開設以来一度も定員を充足していない状況が続いている。学科別にみると、電気電子情報工学科は一度も定員を充足しておらず、医療福祉工学科は開設して4年間は定員を充足していたが、2017年度、2018年度と2年連続で入学定員を充足できていない（資料 5-2-17-7）。

（4）全体のまとめ

2013年度の学部創設以来、定員を充足することができていない。今後、定員充足を目指して、広報活動にさらに力を入れる必要がある。

（5）根拠資料

- 5-2-17-1 3つのポリシー（基盤工学部）
- 5-2-17-2 3つのポリシー（電気電子情報工学科）
- 5-2-17-3 3つのポリシー（医療福祉工学科）
- 5-2-17-4 東海大学入試情報
- 5-2-17-5 東海大学入試要項（身体機能等に障がいがある志願者への特別配慮）
- 5-2-17-6 2018年度大学基礎データ 表2 学生
- 5-2-17-7 世界一行きたい科学広場
- 5-2-17-8 マイコンカーラリー
- 5-2-17-9 WRO
- 5-2-17-10 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-17-11 東海大学常任広報委員会規程
- 5-2-17-12 九州キャンパス広報会議

2018年度 農学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れ方針については、本学の掲げる人材育成のための教育理念（資料 5-2-18-1）に基づき学部学科で検討され、学部教授会の議を経て適切に設定された（資料 5-2-18-2）。またこれらの概要は、大学案内（資料 5-2-18-3）及び学部パンフレット（資料 5-2-18-4）に明示している。これらの詳細については大学公式サイト（資料 5-2-18-5）において公表している。また、学生の受け入れ方針の詳細については入学試験要項（資料 5-2-18-6）等にも明示している。習得しておくべき知識等の内容・水準は大学公式サイト（資料 5-2-18-5）に明示している。また、障がいのある学生については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合、「入学試験要項」（資料 5-2-18-6）にて、出願前に申し出るように記載している。該当者については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、合意の上で出願を認めている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生募集に際して、一般的な入学広報ばかりではなく、教員が各高校で行う移動講座（資料 5-2-18-7）に加え、オープンキャンパスで模擬授業や研究室紹介を実施している（資料 5-2-18-8）。また学力選抜試験以外にも、指定校推薦・公募推薦入試、A0 入試及び編入試（資料 5-2-18-9）ならびに学内での転学部・転学科試験（資料 5-2-18-10）を実施しており、求める学生像に合致した選抜を行っている。さらに過去の入試問題や競争倍率を公表している（資料 5-2-18-11）。指定校推薦・公募推薦入試、A0 入試、編入入試については、各学科での判定の後、学部長の確認を経て、全学的な学部入試判定委員会で最終判定がなされる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

各学科において実験・実習の実施が必須となることを踏まえ、適切な定員として応用植物科学科、応用動物科学科の2学科では80名、バイオサイエンス学科では70名を定めている（資料5-2-18-12）。2018年度の在籍者数は、応用植物科学科において2学年で、応用動物科学科とバイオサイエンス学科において3学年でそれぞれ定員を下回り、学部全体での定員充足率は0.95であった（資料5-2-18-12）。これは2016年の熊本地震の影響による、2016年度以前の入学者の退学者増に加え、2017年度以降の志願者減が起因している。また、未充足の学年では編入試験（資料5-2-18-9）や転学部試験（資料5-2-18-10）を実施し定員の充足を図っている。

	年度毎の入学者数					2018年度の 在籍学生数
	2014	2015	2016	2017	2018	
応用植物科学科	83	93	82	80	69	313
学科 応用動物科学科	91	88	83	79	63	302
バイオサイエンス学科	76	72	72	60	60	259
学部計	250	253	237	219	192	874
充足率	1.09	1.10	1.03	0.95	0.83	0.95

（資料5-2-18-12より作表）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

入試企画専門委員会（資料5-2-18-13）及び常任広報委員会（資料5-2-18-14）にて入試および広報の両側面から全学的な学生受け入れの適切性について検討している。さらに、九州キャンパスでの広報委員会（資料5-2-18-15）を別途実施し、キャンパスや学部単位での学生募集活動を検証している。入学者選抜の結果は教授会で報告され（資料5-2-18-16）、特に指定校推薦入試では指定校の見直しも含め各学科及び学部で検討し教授会で検証している（資料5-2-18-16）。

（2）長所・特色

2018年度のオープンキャンパスでは前年度より参加者が24%増加した（資料5-2-18-17）。移動講座、オープンキャンパス等、高校生と直接的に接する機会を持つことで学生募集の効果が上がっていることが推察される。特に本学部への志願者が多い福岡地区でのイベントに参加し模擬授業を行った（資料5-2-18-18）。今後はオープンキャンパスの内容の充実、実施時期の見直し等を企画することや、広報イベントの効果的な利用を図ることで本学部の学生受け入れ方針が一層広範に理解され、相互理解の下での志願に結びつくよう更に努力する。

（3）問題点

本学部が設置されている熊本県出身学生の割合が、増加する傾向がみられる（資料5-2-18-19）。県内唯一の農学部として地域貢献を重視する方針からも望ましい。2018年度は県内高校への訪問説明の強化等を実施してきたことの効果かもしれないが、全体的な入学者の減少（資料5-2-18-12）は、特に遠方からの志願者減少に起因し、結果として熊本県出身者割合が増加したとも考えられ、更に原因を精査する必要がある。

（4）全体のまとめ

熊本地震以降、暫定キャンパスでの教育運営が続いている。その中で学生の受け入れ方針を実現するために弛まぬ努力を続けており、2018年度末には実習教育の拠点を再構築することができた（資料5-2-18-20）。これについても更に広報し、受け入れの一層の適正化を図る。

（5）根拠資料

- 5-2-18-1 東海大学オフィシャルサイト 建学の精神 <https://www.u-tokai.ac.jp/about/profile/spirit/>
- 5-2-18-2 2017年度 第6回 農学部教授会議事録
- 5-2-18-3 東海大学 TOKAI UNIVEERSITY GUIDE BOOK 2019（抜粋）
- 5-2-18-4 農学部・学科案内 2019（抜粋）
- 5-2-18-5 東海大学オフィシャルサイト 農学部 教育上の教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー <https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/educationpolicy.html>
- 5-2-18-6 東海大学入学試験要項
- 5-2-18-7 高校生のための移動講座パンフレット
- 5-2-18-8 農学部オープンキャンパス実施要綱
- 5-2-18-9 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 入試概要 https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/
- 5-2-18-10 東海大学転学部・転学科試験要項
- 5-2-18-11 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 前年度入試結果 https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/result_apply/result_department/

- 5-2-18-12 大学・短大在籍者数一覧（2014～2018年度） 大学運営本部高等教育室作成
- 5-2-18-13 入試企画専門委員会を含む規程
- 5-2-18-14 常任広報委員会規程
- 5-2-18-15 九州キャンパス広報会議案内
- 5-2-18-16 2018年度 第8回 農学部教授会議事録
- 5-2-18-17 熊本校舎におけるオープンキャンパス参加者数
- 5-2-18-18 夢ナビライブ 2018 福岡会場講義ライブプログラム（抜粋）
- 5-2-18-19 入学者出身地域別割合（農学部学生）
- 5-2-18-20 東海大学オフィシャルサイト 農学部ニュース 阿蘇実習フィールドに実習場の建物を整備
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/undergraduate/agriculture/news/detail/post_92.html

2018年度 国際文化学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

全学的な基本方針を「大学で学ぶに相応しい学力を有し、明日の歴史を担う強い使命感のある者」と定めている(資料 5-2-19-1)。国際文化学部では、これに基づいて、本学部の学生受け入れ方針を「国際文化学部で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、大学のオフィシャルサイト上で公開している(資料 5-2-19-2)。また、この学生受け入れ方針は、学部の育成すべき人材像である「世界で起こる様々な情報を知り、それぞれの国・地域にある政治経済・歴史・文化を理解して国際的な視野で世界を考えることができる能力を身につける」とことと整合性を有している(資料 5-2-19-2)。以上のことから、学位授与方針を定め、公表している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

全学的に「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」を定め、学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度が適切に設定されている(資料 5-2-19-3)。本学部では当該規程に基づき、すべての入試において基礎学力の担保を明記し、学生募集及び入学者選抜の方法を定め、それを大学の入試要項において公表している(資料 5-2-19-4)。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>

- ・ 入学定員に対する入学者数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程、専門職学位課程 >

- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率

本学部の2019年度入試による入学者数は255名であり、入学定員260名を5名下回った（資料5-2-19-5）。また、本学部の在籍学生数は2019年5月1日現在で956名であり、収容定員1040名に対し約92%の充足率となっており（資料5-2-19-1）、収容定員の充足が課題となっている。この課題に対し、本学部では学部の教育方針である「フィールド指向の実践的教育」（資料5-2-19-2）教育活動を実施し、各学科の広報誌において公表している（資料5-2-19-6）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

毎年度初めに、札幌キャンパスの札幌教学課（入試広報担当）作成の入試総括表に基づいて、入試種別ごとに志願者数と入学者数の増減を分析している（資料5-2-19-7）。この分析結果に基づいて、全学規模で行われる学部改組・改編を実施し、学生募集力強化を図っている（資料5-2-19-8）。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

本学部の中で、デザイン文化学科だけが当該学科が設置された2012年度以来過去8年間の入学試験で一度も入学定員を充足できていないことが改善すべき課題となっている（資料5-2-19-7）。

（4）全体のまとめ

評価項目①にある通り、すべての入試において基礎学力を担保した入学試験を実施することをさらに徹底する。

また、学部全体としては収容定員を充足できていないため、2022年度の学部改編（デザイン文化学科の募集停止）に向けて、改編後の教育課程編成及び教員組織再編をにらんだ学生募集方針を再構築していく。

（5）根拠資料

- 5-2-19-1 東海大学オフィシャルサイト 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー（学部）
- 5-2-19-2 東海大学オフィシャルサイト 国際文化学部教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 5-2-19-3 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-2-19-4 東海大学入試情報 2019(抜粋)
- 5-2-19-5 2019 年度東海大学札幌校舎在籍人数表
- 5-2-19-6 国際文化学部学科パンフレット(抜粋)
- 5-2-19-7 東海大学札幌教学課（入試広報担当）作成資料「2019 年度入学試験結果総括表」
- 5-2-19-8 2019 年度第 2 回大学運営研修会資料 1 「東海大学 2022 年度改組改編計画（構想中）」

2018年度 生物学部 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）については、「大学案内」（資料 5-2-20-1 p.171、）に明示している。また、東海大学オフィシャルサイト（資料 5-2-20-2）においても掲載し、広く周知を図っている。

各学科・専攻への入学に際して修得しておくべき知識の内容・水準、その判定方法については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-3）及び東海大学入試情報（資料 5-2-20-4）において出願資格と併せて明示している。

障がいのある学生については、受験及び修上特別の配慮を必要とする場合は、「入学試験要項」（資料 5-2-20-3, p7）中で、出願前に申し出るよう明示している。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受け入れ方針に基づき、一般入試、大学入試センター試験利用入試、公募制推薦入試、指定校推薦入試、A0入試、留学生入試など多様な学生を受け入れることができる様々な入試制度を設けている（資料 5-2-20-4, p3-4）。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-3）、「入試情報」（資料 5-2-20-4）、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-20-5）での周知に加え、本学主催の高校教員向け説明会等で情報提供に努めている。これらの説明については、入学センター職員を中心に入学アドバイザーによって行われている。

入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求については、生物学部選出の委員が各学部・大学院より選出された委員で構成される入試企画専門委員会に出席し、生

物学部の所属する学部入試について検討を行っている。また広報活動についても生物学部選出の委員が常任広報委員に出席し、検討及び承認を行っている。

選抜方法や選考法については、「入学試験要項」（資料 5-2-20-3）において、学科試験、小論文、面接試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示し、公正かつ適切に行っている。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-2-20-6）及び冊子体として発行している「入試情報」（資料 5-2-20-4）に記載している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度5月1日現在では、生物学科277名（定員280名、定員充足率0.99）、海洋生物科学296名（定員280名、定員充足率1.06）、となり、適切に管理されている（資料 5-2-20-7）。また、学部における定員超過については、各入学試験における合否判定を厳正に行い、入学手続者数の予測精度を上げ定員超過を防ぐ施策をとっている。

（※定員充足率＝在籍人数／定員）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れについては入試種別ごとの在籍人数（資料 5-2-20-6, 7）や入試における志願者、合格者、手続者、倍率等（資料 5-2-20-8）や、また、学内外の情勢や文部科学省、大学入試センター等の施策、動向も考慮して新たな制度や募集人員の検討を毎年度行っている。

また、受け入れた学生の学力等について、入試種別ごとに各種の指標を用いて評価したり（例、5-2-20-9）除籍退学の動向を追跡して一定の点検は行っている。これらの側面では現時点で、特定の入試種別で著しく退学率が高い等、大きく見直しの必要な事項は出てきていない。

（2）長所・特色

2016年度の報告では、生物学部では、付属高校からの推薦入学者が大学全体で定めた目標より少ない傾向にあった。2016年度では学部全体で7名であったが、2018年度では28名と4倍となった（資料 5-2-20-8）。本学が目指す一貫教育に向けて、各付属高校での学部学科説明会などで生徒だけでなく、保護者や高校教員などともコミュニケーションをはかり、学部・学科の内容（資料 5-2-20-10）、アドミッション・ポリシーの一層の周知を計るなどの成果が現れた。夏に行っている付属体験授業についても一定の成果が出てきている（資料 5-2-20-11）。

（3）問題点

2016年度1415名であった志願者数が、2018年度は1322名と減少している。一つの理由としては、2016年度は全国私立大学の農・水産系学部の募集人数は前年比で110、志願者数98となっているのに対して（資料 5-2-20-12）、2018年度では募集人数は前年比で101、志願者数89と減少傾向にあるため（資料 5-2-20-13）、私立大学の農・水産系学部が抱える問題となっている。

（4）全体のまとめ

学生募集方法、入学者選抜方法、学部・学科の内容、アドミッション・ポリシーなど本学オフィシャルサイトを中心に、情報発信はうまくいっている。継続して発信し、高校生や保護者への理解を促していく必要はある。入学定員については、定員充足率が1.04であり、適切に管理できている。付属高校を含めた推薦系の入試は好調ではあるが、志願者数の減少はみられるので、危機感を持って定員確保のための、広報活動を行っていく必要がある。

（5）根拠資料

- 5-2-20-1 大学案内
- 5-2-20-2 東海大学オフィシャルサイト 生物学部 アドミッション・ポリシー
- 5-2-20-3 2019年度東海大学入学試験要項(医学部以外)
- 5-2-20-4 東海大学入試情報
- 5-2-20-5 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
- 5-2-20-6 東海大学オフィシャルサイト 前年度入試結果学部入学試験
- 5-2-20-7 在籍人数表 生物学部
- 5-2-20-8 2018年度 大学基礎データ 表3 学部・学科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-2-20-9 2018・2019入学者分析（高校ランク別）
- 5-2-20-10 2019年度生物学部パンフレット
- 5-2-20-11 2018年度付属高校体験授業
- 5-2-20-12 Between 情報サイト（2016年度ベネッセ入試結果調査）
- 5-2-20-13 Between 情報サイト（2018年度ベネッセ入試結果調査）

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学位授与方針は、ディプロマ・ポリシーとして下記のように定めている。

“総合理工学研究科では、本学の学位授与の方針に従い、以下の知識・技能・能力を備えたと認められる者に学位を授与します。1) 既存の学問領域にこだわらず専門領域の垣根を越えて、世界に向けて情報発信できる高度な研究能力と技能 2) 国際的な広い視野と見識を合わせ持った人間味豊かなリーダーとして活躍できる知識・能力”

また、教育課程の編成・実施方針は、カリキュラム・ポリシーとして、学生の受け入れ方針はアドミッション・ポリシーとして、入学前の学習歴、学力水準、能力等や求める学生像を含め提示している。以上3つのポリシーは、東海大学オフィシャルサイトで公開している(資料5-3-1-1)。また、これら能力の判定方法は、入試要項に記載されている(資料5-3-1-2)。

求める学生像：総合理工学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることのできる事が期待でき、基礎学力が十分にある人材。

入学者に求める力（知識・技能・能力）：理工学の個々の分野においてその分野の専門的な学修と研究をするために必要な修士課程の専門的学力と研究技能、及び学部レベルの十分な基礎学力を有し、現在の研究内容を説明し今後の研究計画を立案できる能力。専門分野の情報・知識を得るために必要な外国語コミュニケーション能力。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

上記の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている。

出願時に、修士課程修了または同等の能力があることが出願要件であり、併せて研究業績、研究計画の提出を求めている。入学試験では、研究経過と研究計画に関するプレゼンテーションを課し、研究説明する能力や計画立案能力とともに、英語コミュニケーション能力も併せて評価している（資料 5-3-1-2）。

一般入学試験のみならず、推薦入試、社会人特別入試、国際方式等による留学生の受け入れなど、様々な入試制度を設けている。募集方法や日程等についてオフィシャルサイトでの公開（資料 5-3-1-3）や入学センターによる要項の配布により一般に周知されている（資料 5-3-1-2）。修士の学位を有していない為、修士の学位を有するものと同様以上の学力の有無を確認する必要がある者、および修士課程在籍中で推薦入学希望者に対し、入学試験以前に出願資格審査を行い、入学者の学力や研究資質を担保している。留学生の場合には、面接試験は英語で実施している。また、本学湘南キャンパス以外の修士課程からの推薦入学希望者には、TV会議システムを活用した出願資格審査を行うなど（資料 5-3-1-4）、受験者の利便を図っている。

入学者選抜実施には、担当部署である入学センターや教学部の指示に従って適切に行っている。最終判定は、学長を責任者とする入試判定委員会によって行われており、極めて公正な体制が構築されている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度在籍者数は、春学期46名、秋学期46名である。入学定員は35名であり、収容定員は105名である。従って、収容定員に対する在籍学生数比率は、44%である（資料 5-3-1-5）。このように充足率は、50%弱で推移している。研究科全体で入学者の増加を目標にしているが、容易ではないのが現状である。特に、本学修士課程からの進学者を増やすことが喫緊の課題である。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

毎年の収容定員充足率を指標にしている。進学者を増加させる施策のひとつとして、学費の軽減、奨学金制度の拡充などについて大学院研究科長研修会などを通じ大学運営本部と議論している（資料 5-3-1-6）。また、研究科の存在を学部生や修士課程の大学院生に周知すべく、広報委員会で議論しポスターの原案を作成した（資料 5-3-1-7、5-3-1-8）。

（２）長所・特色

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを定め、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を明らかにするとともに、求める学生像・入学者にもとめる力とともに公開している。入学者選抜制度は適切で公平である。社会人、留学生などを積極的に受け入れている。

（３）問題点

収容定員に対する在籍学生比率は、50%弱であり、進学者増加に向けた対策を講じている。

（４）全体のまとめ

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し公表している。入学者選抜制度は、公平適切であるが、在籍学生比率の向上が課題である。

（５）根拠資料

5-3-1-1 東海大学オフィシャルサイト

https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/science_and_technology/

5-3-1-2 東海大学大学院 2018 年度各種入学試験入試要項

5-3-1-3 東海大学オフィシャルサイト

https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/

5-3-1-4 2018 年度秋学期推薦入学出願資格審査会

5-3-1-5 2018 年度 大学基礎データ 表 2 学生

5-3-1-6 大学院研究科長研修会開催通知

5-3-1-7 広報委員会議事メモ

5-3-1-8 ポスター原案

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

地球環境科学研究科の学生の受け入れ方針は、アドミッション・ポリシーに記載しており、公表されている（資料5-3-2-1、5-3-2-2）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

東海大学の修士課程から進学を希望する場合は推薦での入学試験となる。研究科長、専攻長、指導教員予定教員に対して、事前に修士課程の研究発表と博士課程進学後の計画についてプレゼンテーションを行い、その後一般的な口頭試問を行っている。また、外部からの進学の場合は一般入試を実施している。研究科長、専攻長と予定している指導教員により、修士論文の内容と博士課程進学後の計画に関してヒヤリングを実施し、その後一般的口頭試問を行っている。専門的知識が重要となるが、最終的な学位論文公聴会を考慮して、一般の人にもわかるような説明をする必要があるためである。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>
- ・入学定員に対する入学者数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

＜修士課程、博士課程、専門職学位課程＞

・収容定員に対する在籍学生数比率

入学定員は10名であるが、2018年度入試では、一般入試で2名の受験があった。収容定員は30名、在籍学生数は5名であり収容定員充足率は0.17となっている（資料5-3-2-3）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

入学定員を確保することが、一つの目標ではあるが、入学者の学力レベルの判断も重要となって来る。博士論文公聴会の際には博士担当教員全員によるルーブリックを用いた判定会議を実施している（資料5-3-2-4）。修士課程へ進学する学生が多い研究室では博士課程への進学者を確保できていることを考えると、修士課程への進学者を増やす必要がある。

（2）長所・特色

特になし

（3）問題点

入学定員は10名であるが、2017年度入学者は1名、2018年度入学者は2名であった。

（4）全体のまとめ

修士課程の上部に位置していないため、十分な広報活動ができていない。今後は3研究科を統一する方向で議論している（資料5-3-2-5）。入学定員を確保するため、授業料の検討が必要である。公立大学の大学院が入り安くなっているため、授業料で対抗できないのが現状である。修士課程での進学意識と研究意欲の確保が重要と考える。また、外部の大学からの進学者を確保することも重要と考える。

（5）根拠資料

5-3-2-1 東海大学オフィシャルサイト 東海大学大学院学則

5-3-2-2 東海大学オフィシャルサイト 地球環境科学研究科 教育研究上の目的及び養成する人材像 3つのポリシー

5-3-2-3 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

5-3-2-4 博士論文評価ルーブリック

5-3-2-5 三研究科合同・再編要望

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本研究科の学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、『本学の「建学の精神」と、以下に示す本研究科の教育理念・目標を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れる。本研究科の教育理念・目標：「国際感覚を有し、人類及び社会が今後遭遇し得る諸問題を発見する高い能力を持ち、その問題を生物科学的アプローチで倫理的かつ自律的に解決できる実践力と広い見識を持つ生物科学研究者・技術者」の育成』と定められており、この方針は、本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（資料 5-3-3-1）や「東海大学大学院ガイド」（資料 5-3-3-2）において掲載し、明示している。また「東海大学オフィシャルサイト大学院入学試験」（資料 5-3-3-3）においても出願資格を設定し、本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示し、公表している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学試験要項、大学院ガイド等に記載されている方針に基づき、大学院の入試試験における出願手続き方法、試験上の注意、合格発表、入学手続き方法について記載し学生募集を行っている。特に、出願手続きについては、書類の種別、提出期限について詳細に記載している（資料 5-3-3-3）。これにより、受入れ対象となる受験者を書類審査し、基準に達している場合は、プレゼンテーションを含めた学力選抜を行い、適正に入学者選抜を行っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

本研究科では定員 10 名であるが、2018 年度大学基礎データ表 2（資料 5-3-3-4）にあるとおり、2016 年度 1 名、2017 年度 4 名、2018 年度 1 名の入学生があり、未充足な現状にある。これは研究分野の有無により出願状況が変動するためと考えられる。

2018 年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5 年間平均)
7	0.23	0.24

（資料 5-3-3-4 大学基礎データ 表 2）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

入学者選抜の結果は、年 2 回の入試時期に開催される教授会で報告され、学生募集などについて定期的に検証を行っている。また、2017 年度より進学者を増加させるべく、専攻分野、学費、奨学制度、広報戦略などを三研究科で議論し、2018 年度も継続している。

（2）長所・特色

総合的な生命科学教育研究を、複数のキャンパスにおいて実施しており、それぞれのキャンパスで学生を受け入れる特色をもつ。高い専門研究力を有する教員と先端的な研究施設を効果的に糾合・活用し、生命現象の発現・調節にかかわる機能の解明から、生物資源の生産・開発と高度利用までを目指した研究・教育を行う。このため、生命現象の基礎研究とその応用を追究する「生命科学コース」と基礎研究に根ざした生物資源の高度利用をめざす「生物資源科学コース」を設置して、生物分野における多様な学生の受け入れに対応した体制を整えている（資料 5-3-3-2）。

（3）問題点

本研究科の学生の受け入れについては、2017 年度認証評価結果（資料 5-3-3-5 p.61）の努力課題となっている。博士課程後期への進学は明確な志望動機とともに資質も重要な要素となっている。このため、学生確保のために高い専門的思考と研究技術を教育できる魅力ある環境構築を行い、改善に向けた取り組みとして、総合理工学研究科や地球環境科

学研究科との専攻分野の見直しについて、昨年度より検討中である。

また、本研究科は博士課程後期の独立した研究科であるため、修士課程、あるいは博士課程前期の研究科とのつながりが不明確であるため、広報についても推進すべく、三研究科で改善努力のための積極的な議論を重ねている。学生の受け入れ方針などは明確に示されているので、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-3-3）を通して積極的に学内外に拡大する。すでに、本学オフィシャルサイトの英字サイト（資料 5-3-3-6～7）を作成しているが、さらなるグローバル対応として、国外からの留学生向けの大学院 Web サイトを充実させていく予定である。

（４）全体のまとめ

総合的な生命科学教育研究を、高い専門研究力を有する教員と先端的な研究施設を効果的に糾合・活用すべく、2コース制に分けて生物分野における多様な学生の受け入れを推し進めている。本研究科では定員 10 名であるが、収容定員に対する在籍学生数比率が 0.23 と未充足である。このため、入学者選抜の結果は、年 2 回の入試時期に開催される教授会で報告され、学生募集などについて定期的に検証を行っている。また、2017 年度より進学者を増加させるべく、専攻分野、学費、奨学制度、広報戦略などを三研究科で議論し、2018 年度も引き続きこれら対策を検討している。

（５）根拠資料

- 5-3-3-1 東海大学オフィシャルサイト 生物科学研究科 3つのポリシー
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/biosciences>
- 5-3-3-2 東海大学大学院ガイド
- 5-3-3-3 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 大学院入学試験 生物科学研究科
http://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/d03.html
- 5-3-3-4 2018 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-3-3-5 2017 年度認証評価結果
- 5-3-3-6 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト Graduate School
<https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/>
- 5-3-3-7 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト Types of Admission
https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/types_of_admission.html

2018年度 文学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

文学研究科では、大学の基本的方針に則り、「時代の変化に合わせ、専門分野における高度な知識とそれを活用する能力を修得するとともに、近年の社会の多様な価値意識、人文・社会科学の複合的動向をふまえ、より学際的な視点から地球規模でのグローバル社会に対応できる人材」の養成を目指した3つのポリシーを掲げ、その中でアドミッション・ポリシーを定めて公表している。具体的には、「伝統的な人文学研究の学問領域を超える研究領域」をもち、「確固たる基礎力と柔軟な思考をもって国際的にも活躍」し、「高度な科学技術社会において人間性や倫理観を尊重しながらそれに批判的に立ち向かう精神」を備え、その課程に応じた知識・技能・能力を修得した者に修士あるいは博士の学位を授与するといったディプロマ・ポリシーを明示し、その上でそれぞれの課程で修得すべき知識・技能・能力のそれぞれに対してのカリキュラム・ポリシーを定めている（資料 5-3-4-1）。

こうした教育研究上の目的及び養成する人材像に対し、以下の2点をアドミッション・ポリシーとして定め公表している。第一は上の要件を十分に理解してその修得に努め、かつ、それぞれの課程に応じた学位論文執筆に向かう意欲のある者であり、第二に具体的な知識・技能・能力として、専門分野の情報・知識を得るために必要な日本語および英語（他の外国語）の語学力およびコミュニケーション力、人文学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力を求めている（資料 5-3-4-1、5-3-4-2）。

実際の入学試験は、一般入学試験、推薦入学試験、社会人特別入学試験があるが、そのいずれにしても入学試験の内容は入学試験要項に明記されている。一般入学試験に関しては基本的には語学試験、専門試験および口頭試問（面接）が課される（博士課程後期は英語と口頭試問）が、推薦入学試験では事前の面接等において、社会人特別入学試験では口述試験において、語学と専門試験に準じた判断がなされる（資料 5-3-4-3）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

○公正な入学者選抜の実施

○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

東海大学大学院の入学試験は研究科単位ではなく、全学的な入試制度のもとで運営されている。全学的な入試企画委員会（大学院部会）を設置し、文学研究科長が研究科代表の委員を務めている。また、この委員会の下に各研究科代表の委員から構成される入試企画専門委員会（大学院部会）を置き、入学試験に対する募集方法、選抜制度について検討している（資料 5-3-4-4）。具体的には各研究科の意見を研究科代表委員が入試企画専門委員会において提示し、委員会での検討結果を研究科に持ち帰って再検討することを繰り返し、最終的には文学研究科の意見を大学と調整した形で次年度の全学的入試の枠組みが決定される。

なお、各入学試験の判定委員会も全学で開催され、学長（大学院運営委員長）の下で研究科長が出席するなかで判定が行われている（資料 5-3-4-4）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

文学研究科においては、2018年度入学者数／入学者定員に対する入学者数比率は（以下（ ）は定員）、文学研究科全体では20名（62名）／超過率0.32である。博士課程前期（修士課程）では、全体で17名（44名）／0.39であり、各専攻では、文明研究1名（8名）／超過率0.13、史学4名（8名）／超過率0.50、日本文学6名（8名）／超過率0.75、英文学1名（4名）／超過率0.25、コミュニケーション学4名（8名）／超過率0.50、観光学1名（8名）／超過率0.13である。博士課程後期では、全体で3名（18名）／0.17であり、各専攻では、文明研究1名（4名）／超過率0.25、史学0名（4名）／超過率0、日本文学2名（4名）／超過率0.50、英文学0名（2名）／超過率0、コミュニケーション学0名（4名）／超過率0である（資料 5-3-4-5）。

また、2018年度在籍学生数／収容定員に対する在籍学生数比率は（以下（ ）は収容定員数）、文学研究科全体では59名（142名）／超過率0.42である。博士課程前期（修士課程）では、全体で47名（88名）／0.53であり、各専攻では、文明研究7名（16名）／超過率0.44、史学9名（16名）／超過率0.56、日本文学12名（16名）／超過率0.75、英文学0名（8名）／超過率0、コミュニケーション学14名（16名）／超過率0.88、観光学5名（16名）／超過率0.31である。博士課程後期では、全体では12名（54名）／超過率0.22であり、各専攻では、文明研究7名（12名）／超過率0.58、史学0名（12名）／超

過率0、日本文学2名（12名）／超過率0.17、英文学1名（6名）／超過率0.17、コミュニケーション学2名（12名）／超過率0.17である（資料 5-3-4-5）。

以上の数値から、入学者数、在籍者数ともに50%を割り込んでいる状況である。

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

文学研究科では担当教員がすべて学部所属教員であり、学生募集という点では学部依存している状況にある。したがって、学部からの進学者確保という点で、今後は次年度以降に進学ガイダンスなどで大学院進学の意味や将来的なメリットに関して学部生への周知をはかることを検討しており、同時に就職対策などを含めた対策を講じる予定である。

（2）長所・特色

文学研究科の学生受け入れに関しては、入学試験は厳正かつ公正に実施がなされている。また、少人数教育の徹底がはかられている。

（3）問題点

文科系の大学院進学希望者が圧倒的に少ないことは大きな問題点である。文学研究科では、就職対策を含めて大学院進学のメリットの周知徹底をはかる必要がある。

（4）全体のまとめ

文学研究科では、3つのポリシーを定め、適正な入学試験を実施しており、教育そのものは充実している。ただし、入学者および在籍者が少なく、今後は抜本的な対策が求められる。

（5）根拠資料

- 5-3-4-1 東海大学オフィシャルサイト 文学研究科 教育研究上の目的及び養成する人材像3つのポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/letters/>
- 5-3-4-2 東海大学大学院ガイド
- 5-3-4-3 大学院入学試験 各入学試験要項
- 5-3-4-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-3-4-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

政治学研究科では、「時代の変化に合わせ、グローバル化とローカル化、多様性と統一性、分権化と集権化の衝突の中で、わが国及び世界の経済的、社会的、環境的な持続可能性を実現する新しい政治理論とその応用を探究すること」を教育研究上の目的としたうえで、アドミッション・ポリシーを「本学の「建学の精神」と、政治学研究科（政治学専攻）の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。」と明確にしている（資料5-3-5-1）。

これに基づき、求める学生像を「政治学研究科（政治学専攻）で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、入学者にもとめる力（知識・技能・能力）を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者」および「政治学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者」としている（資料5-3-5-1）。こうした力を各種入試で判定している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生の受入方針に基づく各種入試については、大学全体の入試企画委員会での方針設定に沿って適切に行われている。これらの周知は、各種「入学試験要項」（資料5-3-5-2～5）で出願資格を設定している。いずれの入試においても、大学院教授会の判定を経て、大学院全体の判定会議で公正に可否を決定している。

なお、障がいがある学生の受け入れについては、大学全体の方針である「東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて」（資料5-3-5-6）に沿って対応している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

政治学研究科では博士課程前期の入学定員を10名、収容定員を20名、博士課程後期の入学定員を5名、収容定員を15名に設定している（資料5-3-5-7）。学生が学位を取得するために水準の高い研究指導をきめ細かく行わなければならないことを考慮すれば、入学定員数および収容定員数は適切である。

収容定員充足率は、2018年度現在、博士課程前期0.05、博士課程後期0.07である（資料5-3-5-8）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

点検・評価項目③で記述したとおり、収容定員数に対する在籍学生比率はたいへん低く、定員に基づいて適正に管理できているとはいいがたい。

このような状況に対しては、以前より、大学院志望の動機をもつ可能性のある学部生への積極的な対応を学部専任教員に要請し、また学部生向けの進学説明会（資料5-3-5-9）を行い、広報活動につとめている。また、2018年度より、秋学期の在籍学生ガイダンスにおいて配付資料に大学院の説明（資料5-3-5-10）を盛り込み、直接学部生に大学院の概要を説明している。これらの取り組みにもかかわらず、現状では明らかな効果はない。

（2）長所

特になし。

（3）問題点

在籍学生が少ないことが問題であると認識している。

（４）全体のまとめ

政治学研究科の定員の設定、各種入試については問題はないと認識しているが、在籍学生数の低迷が続いていることは改善を要する。2019年度の研究科教授会では、対応策について時間をかけて議論する予定である。また、さしあたり、2019年度秋学期の在学生ガイダンスに研究科長自ら説明に出向く予定である。

（５）根拠資料

- 5-3-5-1 東海大学オフィシャルサイト 政治学研究科「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」
- 5-3-5-2 2018年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-5-3 2016年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-3-5-4 2018年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-5-5 2018年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-3-5-6 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-3-5-7 東海大学大学院学則 別表2
- 5-3-5-8 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-5-9 大学院説明会ポスター
- 5-3-5-10 2018年度秋学期政治学科在学生ガイダンス資料

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本研究科では学位授与方針、教育課程の編成方針を踏まえ、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）をつぎのように定めている。

『本学の「建学の精神」と、経済学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。

求める学生像

経済学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることができることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

入学者にもとめる力（知識・技能・能力）

経済学研究科

専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を有している者

経済学分野又は経営学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者』

この方針は、本学オフィシャルサイト経済学研究科 応用経済学専攻（博士課程〈前期・後期〉（資料 5-3-6-1）において掲載し、明示している。

また各種の「大学院入学試験要項」（資料 5-3-6-2）や「東海大学オフィシャルサイト 入試情報、入試概要、大学院入学試験」（資料 5-3-6-3）において出願資格を設定し、本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

本研究科では、大学全体が定めた学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、社会人特別入試、推薦入試などの入試制度を設けている。学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」（資料 5-3-6-2）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-6-3）での周知を行っている。

また、大学全体として、入試に関する検討を行う入試企画専門委員会に対して本研究科からも委員を選出し、入試についての検討に参加している。委員会で検討課題が出た場合には研究科に持ち帰り、教授会などで議論し、その結果を委員会に報告している。以上のような入試制度に関する周知と入試制度の策定・実施・検証・改善のプロセスをとっており、学生募集活動は適切に行われている。

また、「入学試験要項」（資料 5-3-6-2）には本研究科の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載されており、公正な入学者選抜の実施に努めている。

入学者選抜の面接試験では研究科長、研究科主任、常任教務委員ならびに指導を希望されている教員を含めた最低 5 名が面接員として審査し評価を行うことで、公正を保っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

< 学士課程 >

- ・ 入学定員に対する入学者数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率
- ・ 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

< 修士課程、博士課程、専門職学位課程 >

- ・ 収容定員に対する在籍学生数比率

経済学研究科では博士課程前期の入学定員を 10 名、博士課程後期の入学定員を 5 名に設定している（資料 5-3-6-4 学則）。大学院教育での大きな目標が学位申請論文の作成にあり、その作成のための研究指導を教員がきめ細かく行っていく必要があることを鑑みると、入学定員数は適切である。

学生の受け入れに関しては、受験生の希望する専門分野との兼ね合いもあり、研究指導教員単位に委ねられるため、研究科単位として出願希望の学生がどの程度、初期段階（問い合わせレベル）で来ているのかが把握しきれていない。また、実際に出願がなされ、入学する学生数については、この数年は各セメスターとも 1 名程度であり、収容定員を超過することはないが、その反対に全く入学者がいないセメスターも存在するので、適正に管理できているとは言い難い（資料 5-3-6-5）。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

大学院入試の可否判定結果を教授会で報告しており、必要な場合はその場で入試の実施に関する問題点の確認を行っており、その際に検証がなされている（資料 5-3-6-6）。

（2）長所・特色

少人数の学生を手厚く指導する体制が整っている。

（3）問題点

定員については未充足の状況が続いているため、改善策を検討する必要がある。出願希望の学生は、まず指導を希望する教員に個別にメールないし電話で問い合わせる場合がほとんどである。問い合わせがあれば、そのつど当該教員が事前に面談をし、今後について検討しているが、そうしたアプローチ情報の共有が教員間で十分にはできていない。この点を定期的に報告し、希望人数やアプローチの多い時期、学生の質などの傾向を組織的に把握する必要がある。

（4）全体のまとめ

定員を充足していない状況が続いているため、一般学生の進学をいかに増やすか、また、留学生や特に社会人の入学をいかに促すかについては改善の余地が大きく残っている。本研究科の魅力をいかにアピールが必要となる。

（5）根拠資料

- 5-3-6-1 本学オフィシャルサイト経済学研究科 応用経済学専攻博士課程（<前期・後期>）
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/economics/>
- 5-3-6-2 大学院入学試験要項
- 5-3-6-3 東海大学オフィシャルサイト 入試情報、入試概要、大学院入学試験
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-6-4 東海大学大学院学則
<https://www.u-tokai.ac.jp/about/regulations/regulations/>
- 5-3-6-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-6-6 2018年度第10回経済学研究科教授会議事録

2018年度 法学研究科 自己点検・評価報告書

〔第5章〕 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

法学研究科では学生の受入れ方針として「アドミッション・ポリシー」を定めて明示している。すなわち、「本学の『建学の精神』と、法学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。」としたうえで、次のように「求める学生像」および「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を示している。

博士課程前期については、「求める学生像」を「法学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることのできることを期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語・ドイツ語・フランス語いずれかの語学力を有し」かつ「法律学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者」としている。

博士課程後期については、「求める学生像」を「法学研究科で定めている学位授与のために求められている法学研究者としての能力と深い学識を身に付けることのできることを期待でき、基礎学力が十分にある人材」とし、「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を「専門分野の情報・知識を得るために必要な英語・ドイツ語・フランス語いずれかにつき、研究者に求められる十分な語学力を有し」かつ「法律学分野の専門的な研究をすすめるために必要な博士課程前期終了レベルの十分な基礎学力がある者」としている。

この「アドミッション・ポリシー」は、東海大学オフィシャルサイト（資料 5-3-7-1）で公表している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

○学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定

○入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備

○公正な入学者選抜の実施

○入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生募集の内容や選抜手続等は入学試験要項に示されており（資料 5-3-7-2～5）、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に募集と選抜を行っている。入学者選抜においては、一般入試では、研究科構成員のすべてが面接に加わることができ、また、研究科教授会での慎重な議を経ることにより（その際、試験問題と答案について閲覧することができる）、恣意的な判定を排除し、受入れ方針に基づく学生募集、入学選抜を公正かつ適切に行っている。推薦入試では、推薦教員、予定指導教員の他、研究科長、専攻主任（2019年度から専攻長）が面接をすることが可能であり、適切な選抜になることを確保している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

東海大学大学院学則別表2に設定されている定員（資料 5-3-7-6）を超える入学は行われていない（資料 5-3-7-7）。他方、2018年度においては、博士課程後期には在籍学生はなく、また、博士課程前期の在籍学生1名という状況にあり、定員の充足状況に問題を残している（資料 5-3-7-8）。

定員充足をめざし、とくに博士課程前期について、推薦入試の説明とあわせて説明会を推薦の主体となる法律学科と連携して行い（資料 5-3-7-9）、また、法学研究科で学ぶことに関して紹介するポスターを作成、掲示している（資料 5-3-7-10）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

研究科内に定期的に検証を行うことを目的とした特別の委員会等は設置していないが、学内の入試企画専門委員会（大学院部会）の委員に法学研究科から1名選出され、学内全体の入試企画の検討に加わり検証を行っている（資料 5-3-7-11）。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

制度と活動からは基準をおおむね充足していると判断できるが、定員が充足されていないところに大きな問題を残しており、基準充足は不十分である。

（4）全体のまとめ

入学者を増加させ収容定員の充足率を高めるため、上記説明会の実施（資料 5-3-7-9）及びポスターの掲示（資料 5-3-7-10）は続けるが、同時に、法学研究科への進学への動機づけをはかるための法学研究科活性化策について、今年度FD委員会でも検討する。具体的には、これまで念頭に置いてきた法学研究者養成と税理士養成にくわえ、公務員（可能なら国家公務員総合職、現実的には国家公務員一般職か地方公務員上級）を目指す学生への対応を強化することによって、ある程度学生数を確保することを考えたい。

（5）根拠資料

- 5-3-7-1 東海大学オフィシャルサイト 法学研究科 教育研究上の目的及び養成する人材像 3つのポリシー
- 5-3-7-2 2018年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入試試験要項
- 5-3-7-3 2018年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-3-7-4 2018年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-7-5 2018年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-3-7-6 東海大学大学院学則 別表2
- 5-3-7-7 2018年度 大学基礎データ表3 学部・学科、研究科における志願者・合格者・入学者数の推移
- 5-3-7-8 2018年度 大学基礎データ 表6 在籍学生数内訳、留年者数、退学者数
- 5-3-7-9 大学院法学研究科進学に関する説明会のお知らせ（掲示）
- 5-3-7-10 法学研究科紹介ポスター
- 5-3-7-11 2018年度学部選任学内諸委員 学部専任学部内諸委員

2018年度 人間環境学研究所 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に、「本学の「建学の精神」と、本研究所の教育理念・目標である「人文・社会・自然科学の枠を超えた学際的な視野で人間の生き方を再考し、豊かさの本質を問い直すことができ、従来の固定観念にとらわれることなく人間環境を広い視野で考え、共生社会構築に向けて行動できる人材」の育成」を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます」として、研究所のアドミッション・ポリシー（資料 5-3-8-1）で明示・公開している。

なお、入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準については、「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）に出願資格として明示している。また、障がいのある学生の受け入れ方針については大学全体の取組みの基本方針（資料 5-3-8-3）に従っている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学生募集方法は、「大学オフィシャルサイト」（資料 5-3-8-4）及び「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）などにより明示・公開されている。

入学者の選抜基準については、本研究所の原案を元に、学内の入試企画委員会及び大学院運営委員会で決定され、「大学院入学試験要項」（資料 5-3-8-2）に記載されている。その選抜基準に従った合否の判定については、各研究所の判定案を大学院入試判定委員会で検討して最終的な合否を決定するなど、複数の合否判定の検討が行われており、入学者選抜において透明性を確保するための適切な措置をとっている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度の収容定員に対する在籍学生数比率は0.70（在籍学生数14名、収容定員20名）（資料5-3-8-5）で、収容定員を確保できていない。この未充足の状況を改善するために、教養学部人間環境学科などの学生に学内メールで進学のご案内を配信するとともに、新入生および在学生ガンダンスで大学院のご案内をしている。また、進学に興味を示している学生については、研究科長、専攻主任、専攻の教務委員及び各学部指導教員がその都度相談に応じている。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生募集及び入学者選抜については、学内の関係部署において継続した検証が行われている。研究科においても入学試験などの機会に入試判定資料などを基に研究科長を含めてその都度検討している。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

収容定員を確保する必要がある。

（4）全体のまとめ

学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し公表している。また、その受け入れ方針に従った学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。それらの適切性については定期的に点検・評価するとともに、その改善・向上に向けた取り組みを行なっている。

しかしながら収容定員を満たしていないことから、収容定員の確保に向けて教授会を構成する教員をはじめ、その他の学部やセンター所属教員及び非常勤教員などとも意見交換を行い、具体的な方策を検討するとともに、学内メールや新入生・在学生ガイダンスでのアナウンスを行なっている。また、学生の受け入れの適切性にかかる点検・評価について、研究科として入学試験などの際に検討している。

（5）根拠資料

- 5-3-8-1 東海大学オフィシャルサイト 人間環境学研究科 アドミッション・ポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/human_environmental_studi/
- 5-3-8-2 東海大学大学院入学試験要項
- 5-3-8-3 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
<https://www.u-tokai.ac.jp/effort/activities/support.html>
- 5-3-8-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報 大学院入学試験
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-8-5 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

〔第5章〕 学生の受け入れ

（1）現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

○学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表

○下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定

- ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
- ・入学希望者に求める水準等の判定方法

芸術学研究科の受け入れ方針は、大学全体の方針の下に定めた教育研究上の目的及び養成する人材像、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえ、アドミッション・ポリシーとして定めている。研究科全体のアドミッション・ポリシーは、『本学の「建学の精神」と、芸術学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れます。』との考えの下、『芸術学研究科で定めている学位授与のために求められている能力を身に付けることのできることを期待でき、基礎学力が十分にある人材』を「求める学生像」として示している。また「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」として、

- 1) 専門分野の情報・知識を得るために必要な日本語、外国語（英語、ドイツ語、フランス語のいずれか）の語学力を有している者。
- 2) 芸術分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力がある者。
- 3) 芸術の分野で、学問と実技・実践の両面からの学びに意欲を有する者。
- 4) 芸術における高度な専門性を支柱としつつ、横断的な思考ができる者。

を挙げ、更に音響芸術専攻では、『芸術学研究科がもとめる力に加え、音楽学と演奏のいずれかにおいて専門的な学修をするのに十分な基礎力があり、かつ音楽学と演奏の両面からの学びに意欲を有する者』。造型芸術専攻では『芸術学研究科がもとめる力に加え、美術とデザインのいずれかにおいて専門的な学修をするのに十分な基礎力があり、かつ美術またはデザインに関する明確な研究目的と学びへの意欲を有する者。』を定めている。それらは、本学オフィシャルサイト「芸術学研究科」のトップページ（資料 5-3-9-1）に明示・公開している。そのほか「東海大学大学院ガイド」（資料 5-3-9-2 p. 20, 21）にも記載している。

障がいがある学生についても、各種「東海大学大学院入学試験要項」（資料 5-3-9-3）において「受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者は、受験方法等について事前に問い合わせ」を行うよう記載している。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学者の選抜基準については、学内に設置される「入試企画委員会」「入試企画専門委員会」などにより各研究科の意見を取り入れて決定され、「東海大学入学試験要項」（資料 5-3-9-3）に記載されている。

入学者選抜に係わる出願資格、出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続期間等に関しては、大学全体及び芸術学研究科、両専攻がそれぞれ定めるアドミッション・ポリシーに基づき、「東海大学大学院入学試験要項」（資料 5-3-9-3）や「東海大学オフィシャルサイト（入試情報）」（資料 5-3-9-4）に記載し周知している。

入学者選抜の体制としては、研究科の専攻毎に入試委員ならびに出題委員を置いている。各出題委員が作問した専門試験問題については、各専攻会議での承認の後、研究科長の確認を経て入学センターに提出されている。また外国語試験の作問についても、両専攻に英・独・仏語の出題委員を置き、両専攻委員間で調整の後、研究科長の確認を経て入学センターに提出されている。

それぞれの選抜基準に従った合否判定案は、研究科長、専攻主任、指導教員予定者などの合議を経た後、大学院運営委員会委員長の下に置かれた「大学院入試判定委員会」にて全学レベルで検討するなど、複数段階の合否判定の検討が行われており、入学者選抜における公正性・透明性を確保するための適切な措置を講じている。（「東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程」）（資料 5-3-9-5）。

前年度の入試結果については、「東海大学オフィシャルサイト（入試情報）」（資料 5-3-9-4）及び「大学院ガイド」（資料 5-3-9-2）に掲出され、透明性を担保している。

身体機能等に障がいがあり、受験及び修学上特別の配慮を必要とする志願者については、入学センター入学課で事前の問い合わせを受け付け、必要とする配慮の内容について検討し、特別配慮内容（試験時間延長、支援者の介助など）を回答する旨、「東海大学大学院入学試験要項」（資料 5-3-9-3）に記載している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

定員と充足率については「2018年度大学基礎データ 表2 学生」（資料 5-3-9-6）に示している。近年の入学者数は定員に対して、2014年度は1.38倍であったが、2016年度には0.25倍にまで減少した。しかし2017年度には0.5倍、2018年度は0.63倍と回復の傾向にあり、研究科としては定員確保に向け、次期カリキュラム改定において、一貫教育体制の構築など教養学部芸術学科との一層の連携強化を図ることとしている。

2018年度の収容定員に対する在籍学生比率は0.56となっている。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
9	0.56	0.68

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

受け入れの適切性に関しては、毎年4月に開催される第1回大学院運営委員会において、入学センターから入試種別毎の要項人数を定めた「東海大学大学院入試要項人数（案）」が示され、その案を元に両専攻会議で点検ならびに審議が行われている。更にその後開催される第1回芸術学研究科教授会において、両専攻で纏められた案を踏まえ、「入試要項人数」に関する審議を行っている。（資料 5-3-9-7）

そしてその結果は入学センターに伝えられ、当該年度の要項人数が決定される手順となっている。

（2）長所・特色

特になし

（3）問題点

入学定員の確保と収容定員の充足に向け、基礎となる芸術学科との一層の連携が必要である。

（4）全体のまとめ

芸術学研究科では、研究科全体はもとより、専攻毎に「学生の受け入れ方針」や各種の「入学者選抜制度」ならびに「入学者にもとめる力（知識・技能・能力）」を大学のオフィシャルサイトや各種印刷媒体で明示している。また「入学者選抜」に関しては、研究科長、専攻主任、指導教員予定者などの合議を経た合格者案を、大学院運営委員会委員長の下に置かれた「大学院入試判定委員会」に於いて合議で決定されるなど、公正に実施している。

学生受け入れの適切性に関しては、年度毎に要項人数の審議確認が成されており、適切に管理されている。入学定員に対する入学者比率や、収容定員に対する比率に関しては、改善が必要な状況である。

（5）根拠資料

- 5-3-9-1 東海大学オフィシャルサイト
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/arts/>
- 5-3-9-2 東海大学大学院ガイド
- 5-3-9-3 東海大学大学院入学試験要項
- 5-3-9-4 東海大学オフィシャルサイト（入試情報）
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/
- 5-3-9-5 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-3-9-6 2018年度大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-9-7 芸術学研究科教授会議事録

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

体育学研究科では、アドミッション・ポリシーを定め、東海大学オフィシャルサイトで公表している。受け入れ方針としては、意欲、基礎学力を有しているものを国内外から広く求めることを示している。また、入学者に求める力として、知能・技能・能力の観点から明確に示している（資料 5-3-10-1）。さらに、大学院ガイドでは修了生の主な研究テーマを掲載し、大学院における研究内容を具体的にわかるようにしている（資料 5-3-10-2）。

体育学研究科独自のパンフレットを作成しており、修了要件や入学資格等について受験生にわかりやすく示している。これらパンフレットは、学会開催時や大学訪問時に教員が持参して配布し情報提供するよう工夫をしている（資料 5-3-10-3）。

以上のことから、学生の受入方針の適切な設定及び公表がなされていると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程（資料 5-3-10-4）に基づき、体育学研究科からは入試企画専門委員として教員1名が選出されている。この規定に則って入試問題作成、採点、判定が実施されている。体育学研究科には、入試委員会が設置されている（資料 5-3-10-5）。また入学試験要項内には、入学試験の試験科目及び時間、面接諮問の要領が公表されている。また、受験及び修学上特別の配慮が必要な志願者に対して、その内容を回答した上で出願受付を行うなど、合理的な配慮に基づいた対応を行っている（資料 5-3-10-6）。

以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制は適切に整備され、入学者選抜は公正に実施されていると判断できる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度に実施された入学試験結果により、2019年度に入学した学生数は大学オフィシャルサイトに公開されている（資料 5-3-10-7）。その入学者数（超過率）は、入学定員15名に対して、入学数は24名（1.60）である。また、体育学研究科収容定員の30名に対し、在籍学生数48名（1.60）で定員に対して十分な数に達している。

以上のことから、在籍学生数は収容定員に基づいて適正に管理されていると判断できる。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

入学試験結果については、入試判定会議において点検・評価が実施され入学者数の適切な管理が確認されたのち、2019年度第2回大学院運営委員会で報告された（資料5-3-10-8）。また、体育学研究科では定員の1.6倍の入学者であり、今後の入学定員の見直しを検討した。その結果、15名を20名の定員に増加する案を研究科運営委員会で審議し了承（資料5-3-10-9）、その後教授会で提案し了承された（資料5-3-10-10）。

以上のように、学生受入の適切性については定期的に点検・評価、及び改善が行われていると判断できる。

（2）長所・特色

アドミッション・ポリシーに基づき、体育学研究科の特徴を活かした学生募集や入学者選抜が公正に行われている。

（3）問題点

特になし

（4）全体のまとめ

学生の受入方針を定めて公表し、入学情報や募集要項においては、体育学研究科が求める学生像や入学者に求める学習歴、研究意欲等を明らかにしている。入学者選抜も厳密な

手続きの基、公正に実施されていると判断できる。入学定員や収容定員については、定期的な点検・評価・改善も実施されている。

（5）根拠資料

- 5-3-10-1 東海大学オフィシャルサイト体育学研究科
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/physical_education/
- 5-3-10-2 大学院ガイド
- 5-3-10-3 体育学研究科パンフレット
- 5-3-10-4 東海大学入学試験運営組織及び業務分掌規程
- 5-3-10-5 2018年度体育学研究科運営組織図
- 5-3-10-6 2019年度東海大学院入学試験要項（秋学期一般入学試験）
- 5-3-10-7 東海大学オフィシャルサイト 2019年度在籍者数（体育学研究科）
https://www.tokai.ac.jp/about/number/num_student/
- 5-3-10-8 2019年度第2回大学院運営委員会 2019年度（春学期）大学院の入学試験結果
について
- 5-3-10-9 2018年度大学院体育学研究科運営員会議事録
- 5-3-10-10 2018年度第10回大学院体育学研究科教授会議事録

2018年度 理学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

理学研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、「本学の「建学の精神」と、「基礎科学を身につけ、応用できるバランスのとれた人生観・世界観を確立し、先端技術の開発・発展を推進できる能力をもち、科学技術の基礎を支える教育と研究を担う人材」の育成」という本研究科の教育理念・目標を理解し、真理の探究に情熱をもった者を国内外から広く受け入れる」と設定され、本学オフィシャルサイトにおける本研究科のアドミッション・ポリシー（資料 5-3-11-1）で公開されている。

アドミッション・ポリシーに入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準についての記載はないが、各専攻・コースに対応する学科の学位授与方針に示されている（資料 5-3-11-2）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

入学者選抜は推薦入試と一般入試の2通りの方法で行っており、また学生募集も本学オフィシャルサイト等で公に行っている。一般入試においては、学力試験の結果に加えて、面接による勉強意欲の有無や大学院生としての資質の有無などの確認を行っている（資料 5-3-11-3）。入学者選抜における透明性を確保するために、結果を点数化し所見と共に保管している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

年度大学基礎データ 表2（資料 5-3-11-4）にある通り、2018年度の定員充足率は、理学研究科全体で0.88（数理学専攻0.25、物理学専攻1.33、化学専攻0.83）であり、専攻によって大きく上下しているが、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。収容定員に対する在籍学生数比率も、研究科全体で0.94（数理学専攻0.19、物理学専攻1.21、化学専攻1.13）であり、理学研究科全体としては概ね適切に管理されている。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
59	0.92	1.09

（資料 5-3-11-4 大学基礎データ表2）

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

研究科主任会において定期的に検証しており、特に推薦入試の推薦基準などについて検討を行っている。

（2）長所・特色

理学研究科全体としては定員充足率が概ね1.00である。

（3）問題点

理学研究科としては、充足率は概ね適正であるが、数理学専攻では、年度によって定員充足率が1.00に達しないことがある。また、物理学専攻と化学専攻では、入学試験の合否判定において、充足率が1.20を超えないように十分検討を行う。

数学科と情報数理学科の学部教育において、大学院進学の意味や利点を説明し、大学院進学希望者を増やす。さらに、数理学専攻では、研究の魅力や修了後の就職について、大学院進学希望者が増えるような情報を学部生に与える。

（4）全体のまとめ

理学研究科の学生の受け入れ方針は、適切に設定され、本学オフィシャルサイトで公開されている。入学者選抜は推薦入試と一般入試の2通りの方法で公正に行っており、学生募集も本学オフィシャルサイト等で公に行っている。

定員充足率、収容定員に対する在籍学生数比率はともに理学研究科全体としては概ね適切に管理されており、学生の受け入れの適切性について定期的に検証し検討を行っている。

（5）根拠資料

- 5-3-11-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
- 5-3-11-2 東海大学オフィシャルサイト ディプロマ・ポリシー 学位授与方針
- 5-3-11-3 2018年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-11-4 2018年度 大学基礎データ 表2 学生

2018年度 工学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

学生の受け入れは、工学研究科のアドミッション・ポリシーとして、本学の「建学の精神」と本研究科の教育理念・目標である「国際的な視野を持って、知の創造と承継と実践を目指し、複雑な課題にも果敢に挑戦し、問題解決することができる高度職業人の育成」を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れる旨、本学オフィシャルサイト(資料 5-3-12-1)及び東海大学大学院ガイド(資料 5-3-12-2)に明示され、入学を志す志願者に周知されている。また、研究科の学位授与基準及び学位論文審査基準は本学オフィシャルサイト(資料 5-3-12-1)並びに大学院要覧(資料 5-3-12-3)に明記されている。

出願資格は「2018年度大学院入学試験要項」(資料 5-3-12-4)に記載されると共に、本学オフィシャルサイトの「入試情報」(資料 5-3-12-5)に記載されている。本研究科ではアドミッション・ポリシーに基づき社会人、留学生、他大学卒業生を受け入れる社会人特別入試(資料 5-3-12-6)、留学生入試(資料 5-3-12-7)及び特別推薦入試(資料 5-3-12-8)を実施しており、多様な学習歴を有する国内外の志願者に門戸を開いている。また、外国での教育を受けた外国居住者に対して国際方式入試(資料 5-3-12-9)を実施しており、国際化の促進に努めている。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

工学研究科では推薦入試、一般入試、社会人特別入試を第1期、第2期の年2回実施しており、これらの実施方法については本学オフィシャルサイト(資料 5-3-12-5)において案内され、2018年度大学院入学試験要項(資料 5-3-12-4)、(資料 5-3-12-10)に詳述されている。また、2018年度より第1期入試において特別推薦入試(資料 5-3-12-8)を実施している。

推薦入試は推薦基準内規に基づき学部から推薦を受けている。(資料 5-3-12-11) 推薦基準は学科毎に学生に周知され、学部長の推薦を受けた学生が推薦入学者として適否判定される。

一般入学試験の試験科目は「外国語、専門科目、面接試問」である旨、「2018 年度大学院入学試験要項」(資料 5-3-12-12)に明記され、本研究科の教育目標を達成できる学力水準にあるか否か判定される。一般入試における試験問題は、全問題を和文・英文併記として留学生の受験に配慮している。また、試験問題について、事前に研究科内委員会及び全学の入学試験委員会において正誤や記載の妥当性について精査している。社会人を対象とする特別入試では専攻分野に関する専門を含む面接試問によって学力水準が判定される。国際方式入試では出願資格を満たす外国居住者に対して書類選考(資料 5-3-12-9)により実施しており、留学生の増加による研究科の国際化を図っている。上記のいずれの入試においても公正、且つ適切な入試の実施及び入学者選抜が行われているといえる。すべての入試業務は研究科長を責任者として各専攻主任が実務にあたり、試験当日は入学試験委員会委員長を責任者として実施している。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

工学研究科では2016年度にそれまでの11専攻から5専攻体制へと改組し、入学定員は研究科全体で203名となった。在籍学生数の定員充足率は2016年度1.20、2017年度1.17、2018年度1.19(資料 5-3-12-13)であり定員を上回っている。下表に示すように全体として入学定員に対して十分な学生を確保している。ただし、医用生体工学専攻においては定員充足できない状況が続いており、今後は志願者増加のための取り組みが求められる。国際方式入試による合格者は2018年度第1期が3名、第2期が6名であり、研究科の国際性の増進に貢献している。

2018年度の 在籍学生数	2018年度の入学定員に 対する在籍学生数比率	入学定員に対する在籍学生数比率 (5年間平均)(資料 5-3-12-13)
481	1.18	1.26

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

工学研究科では、学生の受け入れ方針について定期的に開催される主任・教務委員会において検証を行っている。その結果として、2017年度に他大学出身者がほとんどいない現状の改善を図るために、「他大学出身者を対象とする特別推薦入試制度」の設置を入試企画委員会に諮り、その承認を得て2018年度から実施されるに至った。（資料 5-3-12-8）2018年度は本特別推薦制度への志願者は無かったが、今後、他大学への案内促進等の活動を行い、本制度の周知を図る予定である。また、志願者数及び入学者数の増加を図るために、工学部との連携を図り「大学院修士課程進学のおすすめ」（資料 5-3-12-14）を作成し工学部学生へ配布するなど、学生の受け入れについて改善を進めている。

（2）長所・特色

工学研究科のアドミッション・ポリシーにある「自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れる」観点から実施している国際方式入試では、本学と協定を結んでいるタイ・KMITL から多くの入学生を受け入れるなど、研究科の国際性の増進に貢献している。また、他大学の出身者に対する特別推薦入試の実施を開始するなど、多様な学習歴を有する学生を広く受け入れる姿勢を打ち出している。研究科全体の入学定員である203名を大きく上回る入学生を確保しており、国際性豊かな環境下で多くの大学院生が切磋琢磨できることは大きな長所といえる。

（3）問題点

1 専攻において定員充足できない状況が続いており、今後は志願者増加の取り組みが求められる。2018年度に初めて実施した「他大学出身者を対象とする特別推薦入試」では志願者が無かったため、今後は志願者確保による本入試制度の定着を目指す必要がある。

（4）全体のまとめ

工学研究科は推薦入試、一般入試、社会人特別入試、国際方式入試を年2回実施しており、入学定員の203名を上回る入学者を確保している。志願者を増加させるための取り組みを研究科全体として積極的に行うと共に、入試問題は和文・英文併記として留学生の受験に配慮している。在籍学生数に占める留学生の割合も増加しており、国際性に富む学習環境が構築されている。

（5）根拠資料

- 5-3-12-1 東海大学ホームページ 工学研究科（修士課程）
<http://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/engineering/>
- 5-3-12-2 2018年度東海大学大学院ガイド pp.26-27.
- 5-3-12-3 2018年度東海大学大学院要覧 p.83.
- 5-3-12-4 2018年度大学院入学試験要項
- 5-3-12-5 東海大学ホームページ「入試情報」サイト
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/examination_about/graduate/m12.html
- 5-3-12-6 2018年度大学院入学試験要項 「社会人特別入試実施要領」 pp.47-66.
- 5-3-12-7 東海大学ホームページ 入試情報サイト(English)
https://www.u-tokai.ac.jp/english/admissions/graduate/types_of_admission.html
- 5-3-12-8 2018年度大学院入学試験要項 「特別推薦入試実施要領」 pp.37-46.
- 5-3-12-9 国際方式入試要項（英語版）
- 5-3-12-10 2018年度大学院入学試験要項（推薦入試用）
- 5-3-12-11 2018年度大学院入学者選抜基本要項（推薦基準） p13, p21.
- 5-3-12-12 2018年度大学院入学試験要項 工学研究科専攻毎入試科目一覧 p29.
- 5-3-12-13 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-12-14 工学部作成「大学院修士課程進学のおすすめ」

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本研究科では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、学生受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定している。この学生受入れ方針の中では、本研究科が求める学生像ならびに入学者に求める知識・技能・能力について述べている。学生受入れ方針は、「大学院ガイド」（資料 5-3-13-1 p.31）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-2）において記載し、広く周知している。

「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）において、出願資格を設定し本研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している。また、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-7）においても同様に掲載している。

障がいのある学生の受け入れについては、大学全体の方針「東海大学の障がい学生支援に関する取り決めについて」（資料 5-3-13-7）に則って対応している。「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）にて、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出のあった学生については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容のすり合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

以上のことから、学生の受け入れ方針を定め、公表していると判断できる。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

本研究科では、学生の受入れ方針に則り、多様な学生を募集するため、一般入試、社会人特別入試、推薦入試などの入試制度を設けている。

学生募集方法、入学者選抜方法の周知については、「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-8）での周知を行っている。

留学生には、本学オフィシャルサイトの英字サイト（資料 5-3-13-9）において広報を

行い、本研究科の学生募集方法と入学者選抜方法の周知を行っている。

大学全体として、入試制度の策定から試験実施における検討事項や改善要求について、各研究科より選出された委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、大学院入試について検討を行っている。本研究科から上記委員会に委員を選出し、入試についての検討に参加している（資料 5-3-13-10）。また、大学全体として、広報活動についても各研究科より選出された委員で構成される常任広報委員会にて検討及び承認を行っている。本研究科から上記委員会に委員を選出し、広報活動の検討・承認に参加している（資料 5-3-13-10）。また、研究科内に広報委員会を設置し、本研究科の広報活動の検討・承認を行っている（資料 5-3-13-10）。

以上のような入試制度に関する周知と入試制度の策定・実施・検証・改善のプロセスをとっており、学生募集活動は適切に行われている。

「入学試験要項」（資料 5-3-13-3～6）において本研究科の入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。また、試験実施においては試験日当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの情報によって、受験生の受験時の不安低減に努めている。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」（資料 5-3-13-1～4）において、筆記試験、面接試験、調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

一般入試については、本研究科では大学院入試問題作成委員会を組織し、入試問題の作成・検討、そして、採点を行っている。本委員会では、毎回、前回入試結果の評価を踏まえて、各科目の試験問題の作成ならびに妥当性の検討を行っており、これまでに問題文への英語表記の追加なども実施してきている。

各入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-13-8）に記載しているほか、「東海大学 大学院ガイド」（資料 5-3-13-1）に記載しており、本研究科を志望する学生に対する透明性を確保している。

以上のことから、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していると判断できる。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

本研究科では修士課程の入学定員を 30 名と設定している。この数値は、情報通信学部 に接続する大学院修士課程の研究科として、情報通信学部の定員 320 名の約 10%というこ

とで設定されたものである。この数値は、理工系の研究科として適切なものとする。

以上のことから、適切な定員を設定して学生の受け入れを行っているとは判断できる。

2018年度大学基礎データ表2（資料 5-3-13-11）にあるとおり、定員充足率（表2：収容定員充足率）は2017年度時点で0.70であった。しかし、2018年度の入学者は34名となり入学定員30名を満たしている。

充足率を上げるための取り組みとして、春に情報通信学部の3年次学生向けに開催される就職ガイダンスの中で大学院進学の説明を行うなど、学部からの推薦入学志望者の獲得に努めている。また、3月に実施される学内合同企業説明会において3年次学生に向けて本研究科学生の活動内容を展示する（資料 5-3-13-12）、そして、秋学期に1年次学生向けに開講される「情報通信学概論」の最終回の講義の中で大学院について紹介する（資料 5-3-13-13）など、広報に努めている。

以上のことから、適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していると判断できる。

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比 率（5年間平均）
62	1.03	0.83

（大学基礎データ 表2 学生）

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているかについて入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を入試制度の改革等に活用している。また、本研究科では、大学院入試問題作成委員会において、前回入試結果の評価を踏まえて各科目の試験問題の適切性の検証を行っている。

以上のことから、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っており、また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているとは判断できる。

（2）長所・特色

収容定員充足率は0.70であったが、2018年度の入学者が34名となり入学定員に対し1.13を受け入れ、収容定員充足率は1.03となった。すなわち、適切な定員を設定して学生の受け入れを行い、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理できている。

（3）問題点

特になし。

（４）全体のまとめ

これまでも情報通信学部の3年次生向けに進学説明の機会を設けて説明する、あるいは学内合同企業説明会で活動内容を展示するなど、広報に努めてきた結果、入学者が増加する傾向にあると言える。情報通信学部からの内部進学者のみで定員充足することを目標として、さらに進学説明会の回数を増やすなど、広報を一層強化する。

（５）根拠資料

- 5-3-13-1 東海大学 大学院ガイド 2018
- 5-3-13-2 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
- 5-3-13-3 2018年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-13-4 2018年度東海大学大学院春学期推薦入学試験要項
- 5-3-13-5 2018年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-13-6 2018年度東海大学大学院秋学期推薦入学試験要項
- 5-3-13-7 東海大学の障がい学生支援に関する取り組みについて
- 5-3-13-8 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
- 5-3-13-9 東海大学オフィシャルサイト 英字サイト
- 5-3-13-10 2018年度情報通信学研究科・情報通信学部 各種委員一覧
- 5-3-13-11 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-13-12 大学院研究発表会 発表要項（2019年1月16日）
- 5-3-13-13 情報通信学概論シラバス（2018年度秋学期）

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

海洋学研究科の学生の受け入れ方針は、アドミッション・ポリシーに記載しており、公表されている（資料 5-3-14-1）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

学部在籍時の GPA ランキングが上位 40%以内であれば推薦で受け入れている。また、一般入試に関しては、入試問題検討委員会を設置して、研究科長のもと試験科目に記載されている内容との整合性に関して十分に検討している。入試科目としては、英語と小論文（専門科目）となっており、専門知識が十分に審査されるよう工夫している（資料 5-3-14-2）。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

- 入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理
- <学士課程>
- ・入学定員に対する入学者数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数比率
 - ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応
- <修士課程、博士課程、専門職学位課程>
- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度に関しては収容定員が40名であるが、36名の確保であった（資料 5-3-14-3）。

したがって、収容定員に対する在学比率は0.9であった。しかし、修了予定者22名のうち5名が修士論文を受理されずに修了延期となった（資料 5-3-14-4） 今後は、入学者全員が2年間で修了するよう、指導体制を強化していきたい。

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

- 適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価
- 点検・評価結果に基づく改善・向上

入学定員を確保することが、一つの目標ではあるが、入学者の学力レベルの判断も重要となってくる。修士論文発表会後、研究科教員全員による学位授与審査会を実施し、修士に値する内容かどうかを十分に議論している（5-3-14-5）。従って、点検・評価に基づく改善・向上は行っていると判断する。

（2）長所・特色

特になし

（3）問題点

入学定員が20名であるが、2017年度入学者は21名で、2018年度入学者は15名であった。入学定員の確保が課題である。

（4）全体のまとめ

入学定員を確保するため、学部の教員への理解が必要である。各学科で成績上位40%以内であれば推薦可能であるが、40%ではなかなか定員を確保できないのも現状である。その一方で、進学者の学力も心配である。本研究科一般入試での受験は、40%以内に入っていない学生がほとんどであるため、学部における進学意識の醸成と学力の向上が重要と考える。前者については、学部のキャリア活動の一環として位置づけることも一考である。また、外部の大学からの進学者を増加させることや他大学院への流出を減少させることも重要と考える。

（5）根拠資料

- 5-3-14-1 東海大学オフィシャルサイト 東海大学大学院学則
- 5-3-14-2 東海大学大学院 入学試験要項 p.30 試験科目
- 5-3-14-3 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-14-4 2018年度 大学基礎データ 表15 大学院における学位授与状況
- 5-3-14-5 学位授与審査会評価表

2018年度 医学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

本学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー（資料 5-3-15-1）において、医学研究科のアドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）「医学研究科の教育理念・目標を理解し、臨床医学に具体的に還元する研究テーマを進んで作り上げ、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます。」を掲載し、広く周知を図っている。

「入学試験要項」において、出願資格を設定し医学研究科の期待する知識の内容及び水準について明示している（資料 5-3-15-2 pp.7-8、5-3-15-3 pp.7-8）。また、本学オフィシャルサイトにおいても同様に掲載している（資料 5-3-15-4）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

「入学試験要項」において入学試験における出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している。特に、出願手続については入試制度毎に必要な書類が異なるため、書類の種別、提出期限について詳細に記載している。また、試験実施においては試験当日に持参できるものや不正行為の対処方法についても記載している。これらの措置によって、学生の受験時の不安低減に努め、本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学者選抜を行っている。

選抜方法や選考方法については、「入学試験要項」（資料 5-3-15-2、3）において、学科試験、小論文、面接試験、専門・実技試験や調査書がどのように評価され合否判定に用いられるか明示している。

入学試験の結果については、本学オフィシャルサイト（資料 5-3-15-4）に掲載しているほか、「東海大学 大学院ガイド」（資料 5-3-15-5 p.49）に記載し、本学を志望する学生に有益な情報を提供しつつ透明性も確保している。

このように本学を志望する学生に必要な情報を提供することにより、公正で適切な入学者選抜を行っている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

修士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は、2018年度0.30であったが、5年間平均では0.78であり適切に管理されている。博士課程の収容定員に対する在籍学生数比率は、入学志望者が臨床研修医の人数と関連することもあり、0.54である（資料 5-3-15-6）。

研究分野によっては、海外からの留学生を厳正な合否判定により積極的に受け入れており、博士課程に1名の留学生が在籍している（資料 5-3-15-7）。

修士課程

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
6	0.30	0.72

博士課程

2018年度の 在籍学生数	収容定員に対する 在籍学生数比率	入学定員に対する入学者数比率 (5年間平均)
76	0.54	0.54

(大学基礎データ表2)

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れ方針が、適切に運用されているか入学後の追跡調査を入学センターにて行っている。その結果を踏まえ、入試制度の改革や大学院進学に直結する学部や他大学からの卒業研究生選定の資料等に活用している。

（2）長所・特色

特になし。

（3）問題点

特になし。

（4）全体のまとめ

多様な医学研究分野を医学研究科ホームページ等（資料 5-3-15-8）で広報することにより、学内だけでなく、学外及び海外からも本学を志望する学生を受け入れることにつながっている。今後、英語での広報を拡充するなど、多様な学生を確保する方策をさらに充実させていく。

（5）根拠資料

- 5-3-15-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
<https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/medicine/>
- 5-3-15-2 2018年度東海大学大学院春学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-15-3 2018年度東海大学大学院秋学期一般・社会人特別入学試験要項
- 5-3-15-4 東海大学オフィシャルサイト 入試情報
https://www.u-tokai.ac.jp/prospective_students/admission_app/
- 5-3-15-5 東海大学大学院ガイド
- 5-3-15-6 2018年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-15-7 2018年5月時点 研究科別大学院在籍人数表（留学生）
- 5-3-15-8 東海大学大学院医学研究科ホームページ
<http://www.med.u-tokai.ac.jp/daigakuin/web/kyoikutaisei.html>

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

健康科学研究科の学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）は、「東海大学オフィシャルサイト」において、本学の「建学の精神」と、健康科学研究科の教育・研究上の目的及び養成する人材像を理解し、自ら学ぶ意欲を持ち、十分な専門分野の基礎学力を有した者を国内外から広く受け入れることと明記されている（資料 5-3-16-1）。また、入学者にもとめる力（知識・技能・能力）として、①看護学分野または保健福祉学分野の専門的な学修をするために必要な学部レベルの十分な基礎学力及び論理的思考力、②主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度、③（看護学専攻においては）専門分野の情報・知識を得るために必要な英語の語学力を提示している（資料 5-3-16-1）。

入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準は「大学院入学試験要項」において明示している（資料 5-3-16-2）。

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

「大学院ガイド」に記載しているように、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っている（資料 5-3-16-3）。また、「大学院入学試験要項」において出願手続方法、試験上の注意、合格発表、入学手続方法について記載している（資料 5-3-16-2）。入学試験の結果については、「大学院ガイド」に記載している（資料 5-3-16-3）。このように本学を志望する学生に必要な情報を提供し、透明性の確保に努めている。

大学全体として、各研究科より選出の委員で構成される入試企画専門委員会を組織し、入試について検討を行っている。また、各研究科より選出の委員で構成される常任広報委員会を組織し、広報活動の検討を行っている。本研究科からは、この両委員会に委員を選出している。さらに、入学者選抜実施のための体制としては、各専攻教務委員会、合同教

務委員会が責任を担っている（資料 5-3-16-4）。

また、障がいがある志願者については、受験及び修学上特別の配慮を必要とする場合は、「大学院入学試験要項」において出願前に申し出るように注意喚起を行っている（資料 5-3-16-2）。申し出があった志願者については、文書にて本人の希望と本学の配慮内容の摺り合わせを行い、配慮内容については合意の上で出願を認めている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

2018年度の健康科学研究科看護学専攻の大学院生は定員20名に対し16名、保健福祉学専攻では定員20名に対し6名であった（資料 5-3-16-5）。収容定員に対する収容定員充足率は0.55となり、充足率の低下傾向が認められるが、厳正な合否判定を行うとともに、収容定員に基づき適正に管理している。

点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

学生の受け入れ方針が、適切に適用されているかについては、入試結果等を受け、大学院教授会等で審議し、改善を図っている。看護学専攻では、今年度より「研究コース」と、高度専門職業人育成という目的のもと「CNS（専門看護師）コース」の2本立てとし（資料 5-3-16-6）、高度実践看護師養成という専攻の特徴を明確化した。

（2）長所・特色

健康科学研究科では上述したように、高度専門職業人育成という目的のもと看護学専攻ではCNS（専門看護師）コースを設置するとともに、保健福祉学専攻では社会人推薦入試制度を導入するなど、社会の要請に応じた体制を整えてきた。

（3）問題点

収容定員に対する在籍学生数比率に低下傾向が認められるため、広報等の充実を図りたい。

（４）全体のまとめ

これまで多くの社会人大学院生を受け入れ、高度専門職業人育成の成果を上げてきている。保健福祉学専攻では、社会人推薦試験を導入した 2014 年度以降、ほぼ毎年、社会人を受け入れている。看護学専攻では、日本で初めての遺伝看護専門看護師を輩出するとともに、家族支援専門看護師資格取得者が累積で 27 名に上っている。新たに設けた「CNS コース」の成果の検証など、今後の強化策を検討する必要がある。

（５）根拠資料

- 5-3-16-1 東海大学オフィシャルサイト アドミッション・ポリシー
https://www.u-tokai.ac.jp/academics/graduate/health_science/
- 5-3-16-2 2018 年度東海大学大学院 入学試験要項
- 5-3-16-3 2018 年度 東海大学大学院ガイド
- 5-3-16-4 健康科学研究科委員会構成
- 5-3-16-5 2018 年度 大学基礎データ 表 2 学生
- 5-3-16-6 健康科学研究科オリジナルサイト 看護学専攻 カリキュラム
http://mnwm.ihs.u-tokai.ac.jp/web/kango_curriculum.html

2018年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

[第5章] 学生の受け入れ

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

評価の視点

- 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針の適切な設定及び公表
- 下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針の設定
 - ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像
 - ・入学希望者に求める水準等の判定方法

農学研究科では、建学の精神に則した大学院学則（資料 5-3-17-1 第1条）に基づき、本研究科の教育目標に沿って学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を定め、「大学院ガイド」（資料 5-3-17-2 p.42）と本学オフィシャルサイト（資料 5-3-17-3）において明示して公表している。また、求める学生像および入学者に求める力についても本学オフィシャルサイト（資料 5-3-17-3）に明示している。なお、本研究科のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

『本学の「建学の精神」と本研究科の教育理念・目標である「生物の多様な機能を理解し、生物生産および生命科学領域に貢献しうる高度な専門性と総合性を併せ持つ学際融合的な研究者・技術者」の育成を理解し、自ら学ぶ意欲をもった者を国内外から広く受け入れます。』

点検・評価項目②：学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

評価の視点

- 学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度の適切な設定
- 入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制の適切な整備
- 公正な入学者選抜の実施
- 入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜の実施

農学研究科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づいて10月入学のための秋学期推薦・一般・社会人特別入学試験ならびに次年度4月入学のための春学期推薦・一般・社会人特別入学試験（各第1期・第2期の2回実施）が設定されている。その応募方法と選抜方法については「大学院入学試験要項」（資料 5-3-17-4）に詳細を公表して組織的に公正かつ適切に募集している。

一般入学試験は英語（90分）、研究指導教員の専門科目を含む専門2科目（120分）の筆記試験および面接試問から成っており、入試業務は九州教学課が担当し、筆記試験問題の作成は完全な情報管理のもとで行う体制を確立させている。また、筆記試験と面接試問を課さない推薦入学試験においては、推薦基準を平準化するために出願資格に加えて本研究

科独自の出願要件を設けており、推薦期間内に専攻主任、予定指導教員および研究内容の専門分野に近い教員（1～2名）の合計3～4名による事前面接を行い、出願後の書類審査の資料としている。これらの入学者選抜は、すべてにおいて農学研究科長の指揮・監督のもとで厳正に実施されている。

身体機能等に障がいがあり、受験および修学上特別の配慮を必要とする志願者については、「大学院入学試験要項」（資料 5-3-17-4 p.6）において出願前に申し出るように注意喚起を行っている。申し出があった志願者については、本人の希望と本学の配慮内容の摺り合わせを行い、配慮内容について合意の上で出願を認めている。

点検・評価項目③：適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

評価の視点

○入学定員及び収容定員の適切な設定と在籍学生数の管理

<学士課程>

- ・入学定員に対する入学者数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数比率
- ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応

<修士課程、博士課程、専門職学位課程>

- ・収容定員に対する在籍学生数比率

農学研究科は、生命現象や生物機能の解析およびその応用について総括的に教育・研究するために農学専攻1専攻を設置し、その定員を各学年12名、収容定員24名としている（資料 5-3-17-5）。2018年度の在籍者数は1年次生6名および2年次生7名であり、収容定員に対する充足率は0.54とほぼ半数を示した（資料 5-3-17-6）。このことは2016年の熊本地震による研究環境の悪化が影響しているものと考えられる。したがって、農学部および総合農学研究所等と協力して暫定的な熊本校舎での研究環境を改善させることに努めるとともに、大学院紹介や教員情報の発信する機会を増やして広報活動を充実させ、内部進学者の増加を図る。

**点検・評価項目④：学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

評価の視点

○適切な根拠（資料、情報）に基づく点検・評価

○点検・評価結果に基づく改善・向上

入試制度については、入学センターを中心に組織的に検討されており、農学研究科からは入試企画専門委員が関与している。本研究科内には、学生募集および入学者選抜のあり方について定期的に検証する委員会等の組織は設置されていない。しかしながら、入学者選抜実施における問題・改善点については、次年度入試要項の策定期間が実際的な検証の機会となっており、随時必要な情報を教員間で共有するようにしている。また、検討が必要な場合は研究科評価委員会等で予め審議し、研究科教授会で議論後承認を得ることにし

ている（資料 5-3-17-7）。2018 年度は教員の異動があったため、次年度以降の入試へ向けた専門試験科目の確認と検証を行った（資料 5-3-17-8）。

（2）長所・特色

アドミッション・ポリシーは「大学院ガイド」および本学オフィシャルサイトで広く公開されており、志望する学生に対して適切に明示されている。また、学内においては入学当初に東海大学農学教育システムの紹介の中でも本研究科の入試制度について言及し対応している。

（3）問題点

2016 年の熊本地震を体験した農学部生の内部進学率が低く、2018 年度の収容定員に対する充足率は 0.54 とほぼ半数となっている。今後は熊本校舎における研究環境の改善および広報活動の充実に努め、内部進学者が増加するように注力する。

（4）全体のまとめ

農学研究科では、学生の受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を適切に設定して「大学院ガイド」や本学オフィシャルサイトを通じて公表している。また、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施している。しかしながら、熊本地震の影響によって定員を満たしていないため、研究環境の改善と広報活動の充実に図り、定員充足率を向上させる。

（5）根拠資料

- 5-3-17-1 東海大学大学院学則
- 5-3-17-2 東海大学大学院ガイド Graduate School Guide 2019
- 5-3-17-3 東海大学オフィシャルサイト 農学研究科 農学専攻（修士課程） 教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー
- 5-3-17-4 2019 年度大学院入学試験要項 春学期一般・社会人特別入学試験（第1期・第2期）
- 5-3-17-5 2017 年度第2回農学研究科教授会資料 12（2018 年度東海大学大学院入試要項人数【確定版】）
- 5-3-17-6 2018 年度 大学基礎データ 表2 学生
- 5-3-17-7 2018 年度第1回農学研究科教授会議事録
- 5-3-17-8 2018 年度第1回農学研究科教授会資料 8（2018 年度農学研究科教員名簿）